

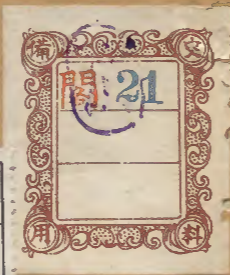
勢陽五鈴遺響

鈴鹿郡

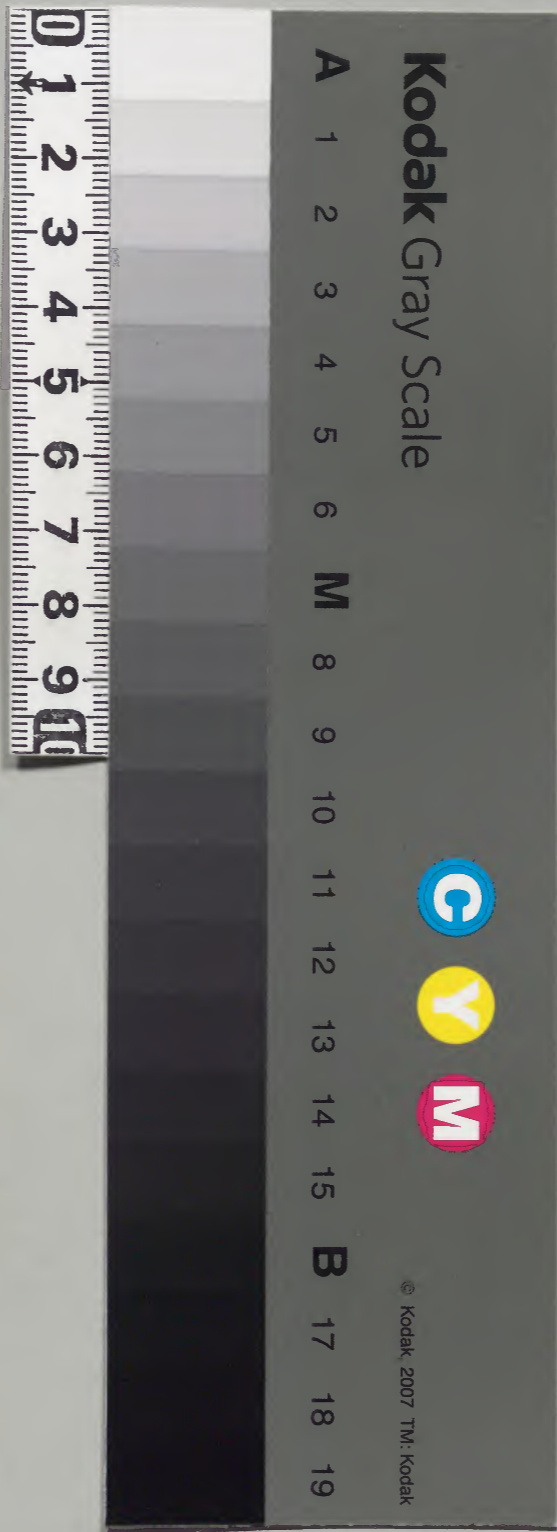
十三

和書門			
二九〇一九	號	函	架
四〇	冊		

庫文閣内			
二九〇一九	號	函	架
四〇	冊		
七二	函		
二四	架		
和書類			

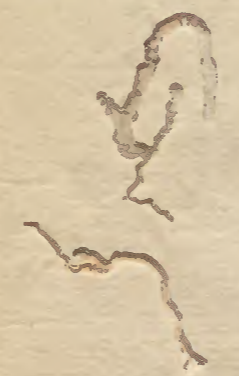
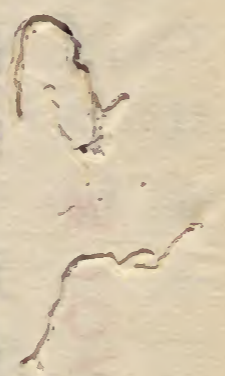
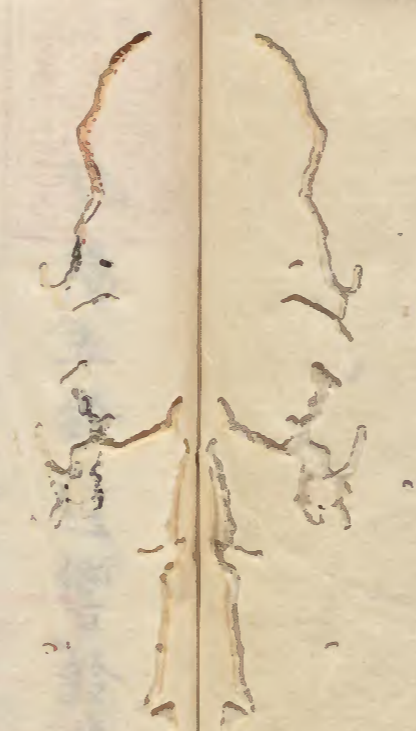


内閣文庫	
番號	和 29019
冊數	40 ( 13 )
函號	172 310





○石神社 江戸千手堂 小坂村 水原下流  
 伊奥之志 山崎 兵衛 御簀山 上 五十 山 川流  
 不流 川 或 御 井 川 下 林 大 秋 山 月 流 出 其  
 深 莫 分 也 河 上 傍 風 堂 下 高 五 十 丈 將 美  
 流 不 前 不 怪 枯 干 午 五 想 下 岩 石 雜 六 七  
 間 宜 行 括 心 力 且 上 以 此 處 下 小 坂 村 州 流 心  
 十 里 其 間 漢 湖 五 石 六 路 才 至 上 雨 澤 地 壁  
 八 石 大 神 同 以 白 色 中 十 九 石 一 處 於 嫩 手 繪  
 冬 三 秋 月 一 紅 葉 鮮 明 至 十 水 不 融 在 住 居  
 上 二 處 延 喜 意 十 十 寄 在 下 七 八 間 許 石 繪 也

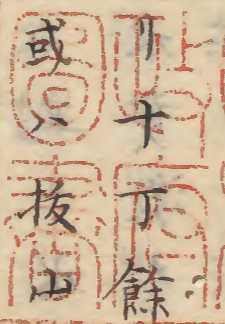




湯五釜遺響鈴鹿郡卷之五

兩一〇七三五號

○石神社



小岐須川ノ水源ヲ流ル

テ奥ニ滝山

ヲ後川或御贄川ト称スハ後山ヨリ流出テ其

深奥ノ処河ノ傍ニ屏風岩アリ高五十丈許其

流水ノ前ニ俗ニ括リト云処アリ岩石徑六七

間重リ括ルカコトニ此巖下ヲ小岐須川流ル

ナリ此間溪澗ノ巨石ニ踏テ至ル兩巖絶壁ニ

メ石大神ニ同ク白色ナリ左右ニ老松蝦手樹

多ニ秋月ハ紅葉鮮明ニメ水ニ映メ佳景ナリ

ト云此辺岩窟アリ客ルヲ七八間許石鐘乳

似テ白色ナルモノアリ方俗骨石ト云此ヨリ  
南ニ鮎トメノ滝アリ後川ノ流水飛泉ルコト  
ク漲リ落ル又鮎留石ト云巨巖アリ高セ丈許  
潤七八間其東ニ前ニ云窟アリ其南ニ右大神  
ノ大巖當レリ其乾位ニ被所森ト云アリ小岐  
須川往昔ハ石神社ノ巨岩ヲ下ヲ流ル慶安三  
年寅七月洪水ニ山崩直流水今ハ七八丈許  
乾位ヲ流テ小岐須村ニ至ル流水變セリト云  
鮎留ハ此処ニ至リ水源ニ公昇ル能ハス故  
ニ名ク是流水貢激ノ滝ニ似タルカ故ナリ此  
処ヨリ以下ヲ御後川御贄川ト称スハ毎年兩  
大神貢獻ス年魚ノ漁捕ス祿宜十二人六月

年七月小岐須村ヲ始ト次第納メ六月廿一  
日名越村ニ終リテ漁ヲ停メ其後ハ村民ノ漁  
獵ヲ許ス流習ナリ其邑ハ小岐須伊舟原  
村川寄ノ名越各御贄年魚ノ行事アリ御  
後川ノ水源ヨリ巽位ヲ望ム片ハ海洋ノ中ニ  
朝熊岳彩黛ノ如ク終ニ看ル其條海崎烟霧ノ  
中ニアリ又本色ノ西ニ入道嶽アリ石神社ヨ  
リ北ニ望メリ俗ニ奴ヨリ兵ト誤ル本邑山本  
大久保ノ三邑ニ跨リテ本郡第一ノ高兵ナリ  
聖室阿閼梨中世大和国大峯精進山上旣絶ニ  
ケル片諸国人修驗者此峯ニ入テ傳法以柴灯  
護廣ヲ修行セシト云故ニ入道力嶽ノ名アリ

山本 小岐須ヨリ二十丁北ニアリ亀山府城ヨ  
リ子位二里山中、民居ス耶森毛登卜訓ス本  
郡ノ内山本二箇処アリ南ニ對メ方俗北ノ山  
本ト稱セリ正税二百八十五石亀山領十リ属  
邑山本靴田アリ  
式内椿太神社 同処ニアリ水沢葦見田神社ヨ  
リ南二十丁ニ坐ス勢陽雜記ニ本社ト小岸大  
神社同殿ニ坐ストイヘリ今ハ此処ニ下リ謬  
傳ナルヘシ 慶會延經神名帳考證ニ椿太神  
社一宮記云猿田彦命也按椿訓都波伎子道別  
言通ス稱其曰吾先啓行鈴鹿郡名起自鍛田椿  
兩神鈴者此神之所德以振有聲取義陽氣動鹿

者神也鹿葦津姫鹿苑之鹿字同義猿田彦太神  
地陽木德神也味酒鈴鹿国<sup>ノ</sup>葉集歌酒見附采  
流今日之言酒取義於采吾應至五十鈴川上杭  
鈴五十鈴伍古久志呂宇治並以采登為此神德  
今在山本村 慶會正身神名帳再考證椿太神  
宮一宮記猿田彦命也神鳳抄ヲ案スルニ采名  
郡ニ椿神田アリ鈴鹿郡ヲ誤テ采名郡ニ入ル  
三重郡小橋御園廿二丁七ノ郷トアリ是ニ柳  
ルニ椿ハ地名ナリ社号ノ義ハ椿ト云地ノ田  
ノ神ニテ神鳳抄所謂神田ニ祀ル処ナリ河曲  
郡都波伎神社ハ今其地ニ三重郡ニ属メ今彼御  
園ニ祀ル処ナリ共ニ大神宮御園ニ神田ナル

ヲ猿田彦神トスルハ扱十キニ似タリ然レハ  
大神宮ノ御田十ル五十鈴川上ノ挾長田ノ守  
ヲセ玉ヲ故吏ニ扱テ此神ヲ其地ニ祀レル十  
ニハ俗傳ノ真ナルヲ尊フヘレ椿ノ訓ヲ道別  
ノ通音トスルカコトキハ假字ノ法ヲ不辨杜  
撰笑ヲ堪タリ社地山本村ニ下リ○親毅考  
ニ延經考證ハ一宮記ニ扱テ猿田彦命ヲ奉祀  
ニ定メ椿ノ字訓ハ津波伎ニノ皇孫瓊々杵尊  
降臨ノ時道獨ヲ啓キ別ルニ子ワキノ約子ワ  
キニ言通ス鈴鹿郡ノ名義ハ本郡鐵田神社ニ  
祭神天目一箇神ノ宝鐸鈴ノ造ルト云々劬ヒ  
テ鈴ノ字起リ椿ヲ神社ニ扱リ鈴ハ猿田彦大

神ノ陽徳ニ比シ鹿ノ字ハ神ニ約ノ或ハ鹿茸  
津姫ノ鹿モ大神ノ地陽木徳ニ同ニク味酒ヲ  
鈴鹿ノ酒ハ万葉集歌ヲ引扱メ榮ルノ略トメ  
神告ノ吾ハ五十鈴川上ニ到ルヘシトアルモ  
扱鈴五十鈴佐古又志呂宇治皆榮盛ノ意ニメ  
木徳ノ神茂盛ニ扱リタル名ルナリト解セリ  
○愚案ニ椿ヲ名義ハ道別ト通音トスルハチ  
トフ音通スカトカハ横通トスル言ナレ氏鑿  
メ附會ナリ鈴鹿ノ義モ同レ鉄田神社或ハ伊  
弉諾尊ヲ祭ルト云然レハ天目一箇命ヲ宝鐸  
鈴ノ説モ由ナレ味酒ハ榮盛ノ訓ニヨリ也  
々元ノ略トスハレ扱鈴モ佐古モ榮ルリ意ニ

ノ木徳神ノ茂栄スルニ比ストイハ氏味酒鈴  
鹿ノ名義別論アリ本郡卷首名義ノ條ニ并セ  
リ考ヘシ又再考証神鳳抄衆名郡ニ椿神田ア  
ルハ本郡ヲ誤リ入タルトイハ氏然ニ非ス椿  
大神ノ田ノ有スルナリ地名ニハ非ニ三重郡  
小椿御園椿岸神社椿神社ノ神田ナリ椿ハ地  
名ニメ此本社ニ椿太トイハハ椿ト云地ノ田  
ノ神社ニテ其神田ニ祀ルト云ハ非ナリ椿ハ  
地名ニ非スメ神号ナリ又椿太ハ椿田ト叙ス  
レト椿太御神ト解メ明ナリ椿太神ノ社ト訓  
ヘシ其倒下條ニ并セメ凡テ神名式ハ某ノ神  
ノ社ト訓ストイハ氏太ヲ田ニ假リタリ例ナ  
シ

シ又河曲郡都波伎神社今三重郡ニ屬スト云  
妄ナリ河曲郡中戸村ニ坐ル社城今存セリ是  
智積村ノ椿神社ト混スル如シメ大神宮ノ御  
園ニ祀ルト云言テ補セリ孰レ椿太ヲ誤リテ  
田ノ字ニ牽強ス氏ニ拠リ椿ハ神号ニメ地名  
ニ非ルハ考索メ知ヘシ三代實録貞觀七年四  
月十五日條ニ伊勢国授正五位上稻葉神從  
四位下從五位上勲七等椿神正五位下既ニ国  
史ニ椿ノ神トイハリテ椿田ノ由ナレ又都  
波伎神社トアルモ是ニ同ニ北畠材親多氣窓  
堂むり一椿の社ナリ朝廷此ハの事ト云セ  
恒例ナリ云云鈴鹿郡賦云山ナリト椿大神

猿田彦垂仁の朝流座少くまをつの山鞠くく  
ほまりり強く系此神を蹴鞠の精大明神日々  
けのかりの猿をうせ此神の此より心を猿格々  
岳ふ生るるる白玉川を記此外子ひのきつ  
まのてこの起りる仁初の新しん時とれり  
まの貞親七連神酒非風秋葉名那小みとる  
田一柳系領の村神木なまを大松を代せり  
る此のひひひふあきふさ記小天正の十一年  
乃尋改子此社を焼くや果純飯もくい記り  
この神より強くおのこ色仁はるをいれり云  
社傳云垂仁天皇廿七年鎮座又蹴鞠二義アル  
以後白河天皇の取守大納言成通鞠ノ精神

カ感メ猿田彦神ヲ後世ニ祭祀スルニ拠テ此  
神社ノ邊廣瀬野ノ内ニ鞠ヶ野鞠ヶ産鞠塚  
等ヲ名ケ又神山ヲ椿ヶ岳椿樹ノ花樽椿等モ  
此神ノ御名ニ拠テ称ス処ニメ猿田彦太神ナ  
ルカ故ニ仁和天皇ノ時一宮ニ定ラレニナリ  
然ルニ往年河曲郡中戸都波伎神社ノ社司ト  
争論アリテ上訴スルニ至リ吉田長上家ヨリ  
令アリテ都波伎神社ヲ一宮記ノ文ニ拠テ一  
ノ宮ニ定ラルナリ神鳳抄外宮椿神田即大神  
宮領ニメ兼久ノ定例ナルニ拠リ今衰廢スト  
イハトモ此地ヨリ迂宮造替ノ御臺ヲ献スト  
之然リ否ハ知ラス勢陽雜記ニ行滿ニ大明神





板種石と云ふものも方の山形にて之宅の社建る  
時久純也と云ふ事も然一統やうは、此  
はよきれおよのほものり、何しそをも今わか  
なく宗川より、歎くもれをわら、此の関ノ宗  
信ノ厚キヲ知ハレ、或云聖武天皇一國ニ一  
寺ヲ建テ国分寺ト号スルニ對メ一條天皇ノ  
朝某國ノ中ニ椿太神社ヲ定ラルナリ然レ  
大社トイハハ神殿社域ノ大ナルニ拠ラズ其  
神徳ノ大ナルヲ崇信メ最上タル義ヲ以テ定  
タル多シ近ク例スレハ尾張國熱田神宮ハ大  
廈トイハレ中嶋郡一宮村ニ坐ス真清田神社  
大如シ

○村尾刑部少副歴代城址本邑ニアリ村尾刑  
部同男村尾豊前守同村尾又助同弥七郎同市  
平居住ス刑部少副墳墓アリ俗濱田殿塚ト称  
ス三重郡濱田城主田原氏ノ別ナリ洞雲院禪  
宗同処ニアリ和漢ニ才圖會ニ載ス  
小社小岐須ノ東ニアリ山林間ニ民居ス古耶  
志侶ト訓ス度會郡小社アリ遠吳曾ト訓メ別  
ツハ之正税四百三十石龜山領ナリ俗傳ニ本  
邑ノ内楨カ窪ト云処ニ建久元年源頼朝上洛  
ノ片名馬摺墨カ馬蹄ヲカケタルト云岩アリ  
今考ニ上洛ノ順路ハ此地ニ非ス俚俗ノ妄誕  
大ナリ此ハ鞠ヶ窪訛ナリ山林ノ

大久保 山本ノ北ニアリ山林ニ民居ス於富久  
保ト訓ス正税六百二十七石龜山領十リ是ヨ  
リ近江国甲賀郡大河原村ニ至ル二里半大河  
原越ト称ス古昔ノ街道ニ東街道三重郡桑  
女村ヨリ石薬師駄下久保和田伊舟長澤小社  
坂本ヲ經テ近江国甲賀郡鮎河越村ニ至ル鮎  
河越ト称ス大河原村ニ至ル八采女石薬師下  
久保和田ヨリ岸田大久保ヲ經テ近江甲賀ニ  
至ル十采大久保ノ名義ハ屬邑下久保ニ對ス  
名々ニテ近江國國司ノ御領ノ下ニ在リ  
大久保城址同処ニ在リ大久保伊豆守居ス伊  
豆守美濃国岐原合戦ノ時戦死廢城ス其子大

久保覺兵衛其子權大夫ニ至リ池田京極ノ二  
家ニ奉任スト云  
岸田 水澤野田ノ東ニ在リ三重川ノ南水屋ニ  
民居ス伎志陀ト訓ス正税百八十六石龜山領  
十リ  
長沢 岸田ノ乾位ニ在リ廣瀨野ノ間ニ民居ス  
奈賀世ト訓ス旧名長瀨即長瀨郷ニ在リ和名鈔  
ニ載多シ正税七百二十五石龜山領十リ本邑  
ノ西長澤野田及伊舟野田ヨリ南廣瀨村ニ至  
リ曠原十リ長二里濶一里半ノ間松林ノ荒野  
ニ在リ旧名能褒野今廣瀨野ト称ス或武備野ト  
云云

式内長瀬神社 同處ニテリ小岐須村石神社ヨ  
リ東。去一里方俗中人宮ト称ス今檢スルニ  
武備塚ト云ヨリ坤位八丁餘水田ノ間鬱林ノ  
中ニ坐ス。度會延經神名帳考證長瀬神社鳴  
澤女命在長瀬郷長澤村按ニ仇波ノ功瀬也倭  
名抄長瀬奈加世度會正身神名帳再考證長瀬  
神社和名抄ニ長瀬奈加世長澤村ニテリ前ニ  
記ス河流類語ニノ祀神水靈十リ。親毅考ニ  
延經考證ニ長瀬神社ハ和名抄長瀬郷ニ於テ  
今ノ長瀬ノ轉切ニ長瀬ト名クニ於リ長鳴  
音相近キヲ以テ鳴沢女神ヲ祭ルト解セリ愚  
案ニ此地ハ倭名抄長世ニ於テ御名ヲ神社

ニ名クハ必セリ延喜神名式ニ長瀬ニ作ルモ  
小岐須殺川ノ下流ニ其地水厓ニ近シ故長  
瀬長澤ノ名相合ハリ此ノ於テ鳴澤女命ヲ奉  
強スルハ至當ニ云ヘカラズ附會ノ妄ナリ正  
身再考證ニ仇テ水靈神ヲ祭ルト定タルモ臆  
度ニ人從七難ニ式社案内記長瀬中宮祭神鳴  
澤女命ヲ祭ルト云ハ考證ニ仇ハルナリ中ノ  
宮ハ中瀬ノ謂ニ人長瀬ハ中瀬ニテ日本武尊  
ヲ祭リ住吉九神ヲ合記ス卜鈴鹿郡賦ニイハ  
リ長瀬川ハ殺川ノ下流ヨリ分流スル間ニ居  
ス故ニ中瀬ノ名ニアルハニ神名帳考證ニ日  
本武尊ヲ奉祀トス勢陽雜記拾遺ハ校正ニ從

テ祭神相同云或云日本武命ヲ兒武稚彥命ヲ  
祭ル云云ハリ各武備陵同処ニ今ニ在ルニ扱  
テ混合ス卜憶ヘリ各其真ハ得難シ或ハ武備  
塚ヲ此神社ニ混スルモアリ其地ヲ檢シ考索  
フ詳ナラサルナリ後條ニ并セリ備考ヘシ  
武備塚本邑卜長澤野田ヲ間竹林中ニアリ武  
貝明神ノ俗稱ス社前ニ迹此婆理都又婆遠須  
疑底伊久用加泥都流ノ子ヲ石ニ鑄メ東都誹  
誹ノ徒綾足カ建タルアリ即此処ヲ倭武命ノ  
御陵卜ノ享保十四年河曲郡今宿村西田栄欣  
吉田家ニ訴日本武尊ノ御陵ニ定ラレ石葉師  
馭中ヨリ此地ニ到ル岐道ニ石標ヲ建テ日本

武尊御陵道卜教導ヲ標セリ或云英太郎長沢  
村武備神社是也所祭稚武彥命ト云又云吉備  
ノ武彥命ノ墓ト云今檢タルニ此所ヨリ五町  
許北ニ古塚アリ西ニアルヲ宝装塚東ニ  
アルヲ開田塚ト俗稱ス各石標ヲ建タリ其塚  
廣三間四方許東西ノ二塚相去リ十間許ナリ  
或武備社記ト云アリ能褒野武備神社坐日本  
武尊一座ト記セリ  
伊舟長澤ノ東ニアリ廣瀨野曠原ノ中ニ民居  
ス伊布奈卜訓ス正稅七百三十六石龜山領十  
リ屬邑伊舟野田屬邑ナリ本邑ノ東ニアリ又  
岡執田ト云カ如ク豊臣秀吉文祿三年古檢地

和田文寛永中ノ旧案等アリ本居神式外八幡  
祠アリ又人定ト俗称ス窟ニケ処存ス其来由  
不詳又亀ヶ池ト云沼アリ水田ノ用ニ設ク置  
処ナリ

深溝 伊丹野田ノ東ニアリ曠野ノ中ニ民居ス  
布加美増ト訓ス正税六百八十八石龜山領十  
リ神鳳抄云深溝御厨十三丁兼久ノ定ナリ外  
宮神領目錄深溝御厨一石十二月勤之御油ト  
載ス御油ハ十二月晦日夜灯油神事ノ用ナル  
ハシ本邑神明祠アリ天照大神ヲ奉祀ス古昔  
御厨ノ地ナリ故ニ祭ルト云  
和田 深溝ノ北ニアリ三重郡界川ノ水厓ニ民

居ス和牟院ト訓ス本郡和田同名アリ龜山府  
ノ東ニ在ヲ南ノ和田ト云本邑ヲ北ノ和田ト  
分チ称セリ属邑花川本邑ノ巽位ニアリ正税  
二百八十五石龜山領ナリ神鳳抄云高和田御  
厨一石ト載ス処ナリ本邑鹿間供ニ古昔ハ三  
重郡ニ属セリ今本郡ニ隸属ス田野ノ間鎌倉  
右大将頼朝上洛ノ時休憩所ノ遺趾アリ茶屋  
場ト称ス今考建久年中ノ時ハ此街道ヲ経歴  
ニ非ス俗傳ニメ非ナリ然レモ往昔ノ古街道  
ニメ此妄傳ヲ土人ノ云処ナルハニ

○観音寺 同処ニアリ本堂ニ元和寛永中ノ  
画馬ヲ掲タル今多ク存セリ又人馬ノ往来セ

三封疆ノ趾アリ今考ニ本州ヲ經テ東街道ノ  
往客ハ近江国及伊賀路ヲ經テ大倭国ヨリ鈴  
鹿山本長沢和田ヲ過テ三重郡ニ至リ朝明素  
名郡ニ至ル或金総馭ヨリ東海ニ舟行セリ又  
近江国甲賀郡ハ坂本横石長沢野田和田ニ至  
リ三重郡ニ至リ東行スルナリ倭武命ノ美濃  
ヨリ本州ニ至リ三重郡ヲ歴テ能褒野ニ薨御  
モ此街道ノ次第ナリ考ヘシ此故ニ街道ノ蒼  
ナレハ諸人ノ來往モ寬永中ニ至テモ多ナリ  
シナリ

南畑 平尾ノ良位上野川ノ南ニアリ山林ニ氏  
居ス美奈美婆多ト訓ス正統四百六十一石龜

北畑 南畑ノ乾位上野川ノ北ニアリ山林ニ氏  
居ス伎太婆多ト訓ス正統二百二十二石龜山  
領ナリ本邑ノ北ニ右大将源頼朝建久中上洛  
ノ時鷄狩ノ遊獵アリシ処東西二丁南北二丁  
ノ地ヲ其遺址ナリメツラシ野ト名ク俗傳ナ  
リ今考テ上洛ノ街道ニ非ス妄ナリ本郡小社  
村ニ名馬摺墨瓜カケ岩ト云アリ同談ナリ東  
鑑建久元年十月三日甲申其後首途無程臨黃  
昏之令宿相摸国懐嶋給テ四日乙酉入御酒勺  
宿九日庚寅於駿河国蒲原馭院宜到十二日癸  
巳於岡部宿進院宣請文十三日甲午遠江国菊

川宿廿七日戊申令奉幣熱田社給<sub>レ</sub>廿八日巳酉於小熊宿須細大夫為基賜身暇及暮着御于美濃国墨俣廿九日庚戌於青波加宿十一月二日壬子於近江国柏原被召取前右兵衛尉忠康五日乙卯著御野路宿七日丁巳二品入御洛同十二日関東下向駄路右二同之此二畧又本畧二照メ考ヘ之延尉義經及蒲冠者範頼西海役ノ上洛モ相同之本郡石葉師馭ノ條二詳二七リ然レハ頼朝上洛此地ノ街道二非ス方俗ノ妄誕信ニ難シト<sub>レ</sub>  
平尾 南畑ノ乾位安楽川ノ傍山林ノ民居ス比良遠ト訓ス正税四百九十一石龜山領十リ

式内 弥牟居神社 同処ニアリ方俗林尾崎天王ト称ス本郡川寄村縣神社ヨリ西十八丁度會延經神名帳考證云弥牟居神社大山祇今三津子山弥字訓伊耶者非也度會正身神名帳再考證弥牟居神社祀神大山祇十リニム子ハ三向十リカ<sub>レ</sub>心ノ切<sub>レ</sub>キ<sub>レ</sub>用<sub>レ</sub>由俗云三ツ子山又三高山氏云○親毅考ニ延經考證ニ本郡鈴鹿三箇山ニアリ弥牟居音相似タルニ抑リ其山岳ニ在ルカ故ニ大山祇命ヲ祀ルト云ヘル注ナリ愚案ニ或ハ弥ヲ伊耶ト訓スルハ非ナリト云ハイヤムコニテハ三津子ノ音ニ遼十里故ニ非ナリト牽強ス又山岳ニ坐ス故ニ太



山祇命ヲ配スルモ臆断ニメ附會ナリ既ニ三  
箇山ハ所祭ハ方山神社前ニ鈴鹿権現ヲ宛ル  
ハ的然ナリ別ニ需ムヘキニ非ス神名帳考正  
ニ三津子山ニアリト注スニ從ヘリ又後輩勢  
陽雜記拾遺古屋草帑是ニ傷ヘリ然レモ帑上  
ノ空譚ニメ今考索メ三箇山中ヲ踈隣スルニ  
其地ヲ得ルナシ方山神社ノ旧墟地ヨリ此  
山岳ニ神社ノ遺址トスヘキモ曾テ知ラズ凡  
テ二百五十三座ノ式社ハ深奥山中ニ有スル  
ナシ大桑人蹟ノ至ルヘキニ坐ス考ヘニ方山  
神社ノ旧址ハ今ノ神社ヨリ八丁許深幽ノ地  
トイヘモ鈴鹿頓宮ノ地ナレハ街道ノ順次ナ

レハナリ正身再考證大山祇命ヲ奉祀スルト  
云ハ山岳ニ拠テ前考證ニ倂ヘルナリ三向ノ  
訓義反切ヲ例メ注ストイヘモ氏解ニ難シ強テ  
三ツ子三高ノ名ニ合スル牽強ナルヘシ各其  
證ヲ得ス紀由章鈴鹿郡賦ニ弥牟尼ハ平尾の  
天王トイフナリ云云此人本郡ヲ産ニメ  
博古精字ナリ旧古ヨリ傳タルヲ舉ルナルヘ  
シ式社案内記平尾村天王社ヲ充タリ然レト  
モ大山祇命ヲ祭ル処トス是考證ニ從ヘリ未  
詳トスヘシ此地ニ昔時ノ関塞ノ趾ニメ関ヶ  
坂ト称ス処ナリ安楽越ノ街道ニメ関防ヲ置  
タルモ則ルヘカラス然レハ関徠ノ地ニメ鎮

護ノ神ト坐スヘシ然レモ詳ナラス猶考フハ  
原村南畑ノ河東ニアリ山林ノ間ニ民居ス訓  
字ノコトニ本邑ニ三郷アリ南所北所垣外三  
処分ツ正税千百九十九石龜山領十リ神鳳  
抄原御厨八十三丁内宮上分百石御祇禱米外  
宮上分三石神領目錄云原御厨三石内六九十  
二一石宛  
或内天一鋏田神社 同處ニアリ本邑ノ西方俗  
八鳥宮ト稱ス本郡川崎村志波加伎神社ヨリ  
十三丁東ナリ今閱スルニ正面ニ社並坐不社  
前ニ立石アリ一尺許左ノ傍ニ石塔婆ニ基ヲ

建タリ一基ハ三尺許塔ノ笠遺レリ何ノ為ニ  
造ル処未詳 度會延經神名帳考證天一鋏田  
神社天目一箇命稚産靈命古語拾遺云大玉命  
所奉神天目一箇命伊勢忌部等祖也按目子真  
同訓真ハ中也一箇言中外無二士位ハ中央万  
物出自土旧事記云天目一箇神為造鐵鋏者謂  
佐那岐字昏鋏大鈴也丹波国桑田神社鋏与桑  
同訓稚産靈神双上生蚕与桑土穀ノ灵相配ス  
今ニ安野田村此轉訛欣度會正身神名帳再考  
證云天一鋏田神社當社ハ桑名ニアリ多度神  
社天目一箇命ヲ此郡ニ重祀ルナリ俗是ヲ勸  
請ト云社号天人字ヲ兼アタヒトツト訓スハ

ニ 鋤田ハ 桑名ト 同シカ。 同音ノ 例ナリ 猶 桑  
名ヲ 條ニ 記ス 古ノ 社地 未考 今ハ 原村ニ 下リ  
○ 親 毅考ニ 延 經考 證 天一 鋤田 神社ノ 名ニ 拠  
テ 古語 拾遺ニ 引 拠ノ 天目 一箇 命ハ 伊勢 忌部  
等 祖也ト 云ニ 從ヒ 此ニ 祭レリト 目ハ 真ト  
一 同訓ニ 真ハ 中央 一箇ニ 中央ニ 外ニ 双  
比スヘキ 十二ト 云義 土ハ 中央ノ 位ニ 人 万物  
土ヨリ 生ス 故ニ 伊 夏記ニ 天目 一箇 命ハ 鉄 鉄  
ヲ 造ルト 云、 又 雅 産 灵 命ノ 額上ニ 蚕 桑 生スト  
アルニ 拠リ 丹波 国 桑田 神社ノ 桑ト 鋤ト 同訓  
ニ 故ニ 二 神ヲ 祭リ 土ノ 靈 天目 一箇 命ニ 從  
配メ 祭ルル 義ナリ 桑田ハ 今ノ 安濃 田ノ 轉語

十ルヘニ 故ニ 安濃 田ニ 所在ト 云注ナリ 愚考  
ニ 天一 鋤田ノ 天一ヲ 来テ 天目 一箇 命ヲ 桑名  
郡 多度 神社ニ 既ニ 奉祀スルヲ 又 此処ニ 重祀  
スルト 云本 拠詳ナラズ 鋤田ノ 名義ハ 丹波 国  
桑田 神社ニ 雅 産 灵 命ヲ 祀ルニ 拠リ 双上ニ 蚕  
桑ヲ 生スト 云ニ 桑田ヲ 牽 強メ 此ニ 毛 併 祭ル  
ヲ 以テ 桑田 鋤田 同訓ナレハ 奉祀ノ 理ナリト  
云ハ 更ニ 信難ニ 延喜 神名式ニ 天一 鋤田 一座  
トス 然ルニ 天目 一箇 命 雅 産 灵 命ヲ 合祀スヘ  
キ 義ナシ 自己ノ 見解ニ 牽 強スル 片ハ 私 説ニ  
ニ 座ト 定ムト 憶ヘリ 怪ムヘシ 鋤田ハ 安濃 田  
ノ 轉訛ト 不ハ 氏 神 鳳 抄 所 載 豊田 御厨ノ 地ニ

メ旧名豊田ナリ各從ヒ難シ又正身再考證當  
社衆名ニアリ多度神社天目一箇命ナ此郡ニ  
勸請メ重祀ス歟田ハ衆名トナトたト音通故  
ニ同訓ナリ其古地ハ不知トイヘ凡今原村ニ  
アリト解セリ愚考ニ當社ハ衆名ニアリ多度  
神社天目一箇命ナ此郡ニ重祀ト云ヘ凡其證  
慥ナラス又天目一箇命ハ多度社傳ニ拠ル片  
ハ攝社ナリ然ルニ衆名歟田ト同訓ナ例スル  
片ハ多度神社及衆名神社ハ天目一箇命ヲ奉  
祀スト憶ヘリト云ヘ之是前考證ノ糟粕ニ人  
其義ヲ尽シ難シ猶其古地ハ不知トイヘ凡今  
原村ニ在ト云ハ妄ナリ古地ヲ不識シテ多度

神社ヲ重祀スルノ義何ニ拠テ知レリ否ヤ荒  
唐ノ言ナリ凡テニ考證甚穿鑿ニメ詳ニスト  
イヘ凡各臆度牽強ニメ其真ヲ得難シ後再考  
ハ最疎畧ニメ拘束ナシ故ニ前説ヲ排斥スル  
ヲ本旨トメ妄誕相半セリ此ヲ患テ其真ヲ得  
ント欲メ討論スルニ及ヘリ余經歷メ再考證  
ニ云カコトク本郡原村アリト云ニ拠テ村老  
ノ旧傳ヲ尋ルニ八寫明神ト稱メ伊弉諾尊ヲ  
奉祀リ近江国多賀明神ニ相同シト云然レ凡  
天一歟田ノ名義ヲ解セス猶祭神モ未詳ナラ  
ストスルニ及テ考索スルニ紀由章鈴鹿郡賦  
ニ式社ノ部ニ云天一歟田ハ原ノ里八寫明神

伊弉諾の字ト云々云天一鋏田ヲ云々  
くハトヨメリ此ニ拠ル片ハ伊弉諾尊ヲ奉  
祀ト定ムルハ旧傳ナリ按スルニ天ハ字ノコ  
トシアメト訓ヘシ一ハヒトツノ略比伊通音  
ハトモイトモ訓ヘシ旧事記云鐵鋏佐那岐恐  
クハ鋏ハ鋏ノ字ノ誤リニテ天伊佐奈岐ニメ  
田ハ大ノ字ノ轉訛伊弉諾尊ハ天尊ノ高祖十  
ルヲ崇敬メ天伊佐奈岐大神ノ義ナルヘシ  
大神社ハ椿大神社ノ例ノコトニ方俗ハ嶋明  
神ト稱スハ日本神代記大八洲国壤ヲ生玉ハ  
ルト本文ニ拠テ自然ト俗稱スル処ナリ此ニ  
拠テ百のいさなき大神ノ社ト訓メ古ニ適ヘ

シ凡テ名神ノ神社ハ地ハ御厨御園ホモ多シ  
神鳳抄原御厨八十三丁内宮上分百石是大神  
ノ坐ス社地ノ義ニ逼シ前説ヲ排メトイヘ凡  
異説ニ非ス今古ノ所傳ヲ正メ實ヲ得ヘシト  
博古ノ微意ヲ述ルナリ古屋草帑ニ天目一箇  
命天香山ノ案ヲ殖ルヨリ其地ヲ原ト名ケ鋏  
田ハ桑田ナリト云是考證ニ從ヒテ妄説ナリ  
神名帳考正社地未詳式社案内記ハ原村今云  
八島宮ナリ祭神天目一箇命是考證ニ從テ同  
轍妄ナリトス同本邑ニ後花園天皇女安禪寺  
殿隱棲ノ地アリカニ山カニ川十ト云々  
詠玉ヘル処ナリ東ノ郊原ニホウ塚ト字ス処

アリ皇女ヲ奉葬地ナリト傳ヘタリ又文明年  
中藤原親元記アリ御厨ノ地也

無量金光寺 同処ニ下リ往昔ハ寺領五百貫

アリシ大判ナリ天正中峯城合戦ノ時兵大ニ

回祿メ今纒ニ存セリ峯越前守歴代ノ香華所

ナリ峯家三代ノ神儀今ニ存ス勢陽雜記為家

於麻山園持ありて記神心

此寺ヲ樞メ此処ノ詠トス鈴鹿関ト地モ稍ク

遠ニ関乃原ニ本邑ニ非ルヘシ又本邑乾位

六町許吉丸山ト云処アリ高田宗第二祖真惠

上人六年延居ノ地ナリ專念坊尊乗坊ト云遺

蹟骨堂手水ノ井及坊舎ノ礎東西四十間南北

三十四間封疆築墻ノ跡アリ農家ニ文龜三年

六月八日上人深筆六字南無佛ノ名号ヲ傳タ

リ又坤位十下許鷹ノ尾山下云処アリ

阿らくらやまのたけふしなる尾山やまのたけふしなる尾山の芝の

真佛上人ノ子上人ノ口碑ニアリ此地居住ノ

時渴仰帰依ノ徒七郷講中ト名ケ今ニ存ス上

人此処ヨリ迂轉メ菴藝郡黒田村ニ迂リ今ノ

一身田專修寺ヲ造創メ住シ永代傳灯ノ道場

トナレリ

河寄 原村ノ巽位ニアリ安樂河板川ノ中間山

林ニ民居ス加波左伎ト訓スニ河ナ岐ニアル

故ニ名ク旧名河曲寄ト称セリ今河寄ト云倭

名鈔縣郷十リ正税二千十一石龜山領十リ  
屬邑森本邑ノ西ニアリ本邑ノ内六世古ニ分  
カテリ森一色柴寄石坂南出町以上十リ  
式内志波加支神社 本邑ノ内柴寄ニ古昔神社  
アリ今廢メ十ニ村老ニ探索スルニ峯ノ城田  
址ノ北ニ宮ヤシキト云処アリ土人柴垣サマ  
ト称セリ然レ氏社宇十ニト答フ原村天一歟  
田神社ヨリ東ニ至ル十三町 度會延經神名  
帳考證志波加支神社大八洲雲按志婆洲也陸  
奥国宮城郡志波彦神社今松島明神也栗原郡  
志波姫神社栗原国言通原ハ祝也加支ハ靈也  
倭名鈔靈和名美加介今在楠原村称天神此乎

楠原国津吉通厚ハ祝也屬菴藝郡度會正身神  
名帳再考證志婆加支神社柴垣ハ日本記卷ニ  
ニ出タル青柴垣ニテ玉垣瑞垣ハ非ス及ニ  
設ケテ神社ト云謂十リ世記ニ味酒鈴鹿国奈  
具波志忌山止白支十トニ工テ御經行ノ地十  
レハ其片暫ク止リ玉フ処ニ此神社ヲ置之十  
ヲニ考證ニ楠原村天神社是欽トアリ未詳  
親毅考ルニ延經考證志波加支神社ノ名義志  
波ハ洲十リ陸奥国志波彦神社ヲ引扱メ栗原  
郡志波比賣神社ト併考スレハ栗原ト國ハ音通  
不国ハ洲ト同ニ原ハ祝十リ加支ハ雲十リ灵  
ヲ和名抄ニ美力介ト訓ス楠原ニアリ楠原ハ国

津ト音通ノ原ハ上ノ如ク祝ナリ故ニ楠原ノ  
天神ナルヘシト解セリ愚考ニ楠原ハ国津原  
ノ謂ニメ陸奥国栗原ニ同ク志波比賣神社ノ  
所在ニ拠テ此楠原村ニ所在ナルヘシト鑿說  
甚キニ至シリ楠原ノ名義ハ強テ此義ニ非ス  
椋本ト同ク楠及椋樹ノ存セルニ拠ル名ナリ  
此神社ニ拠ニ非ルヘシ牽強ノ此說アルカ故  
ニ後学奄照近神名帳考正ニ楠原村天神ト定  
タリ考證ハ其證ヲ得ナルニ臆断スル所ヲ後  
ニ必定トスルハ先賢ヲ罪ニ陷ルニ同ク兵乱  
沿革ノ時ニ廢亡スル処ヲ今探索スルハ其功  
勞甚ニ昇平ノ時ニ懐手ノ其實ヲ得ニトスル

ニ懸隔セリ前輩ノ勲績ハ賞スヘシ然レ後季  
ニ至リ其謬誤ヲ訂正セサルハ其功愈空カル  
ヘシ故ニ愚フ不顧メ此ニ裾據ハ所考ニメ先  
人ヲ排スルニ非ス博古ノ僻黙止スルニ難キ  
ノ故ナリ今属安藝郡ト云然レ凡神鳳抄云鈴  
鹿郡神名式ハ本郡トイヘ凡楠原片洲御厨七  
十五丁五石ト載ル片ハ旧ト本郡ニメ今菴藝  
郡ニ隸セリ凡云ヘシ其故ハ本郡ト菴藝ノ郡  
界ニアリ今古差異ナキニ非スト憶ヘリ然レ  
其證楠原ニ至シ故ニ必定ニ難シ又正身再考  
證ハ柴垣ノ名ハ玉垣瑞垣ニ非ス仮ニ設タル  
垣ニメ大神鈴鹿志山ニ迂幸ノ片仮座ノ地ニ



神社ヲ所置ナルヘシトテハ愈臆度ニメ其地  
ヲ闕セサルノ幣ナリ倭姫命世記鎮座次第記  
迂幸要畧等ニ所見ナシ又此地ニ定ル片ハ忌  
山迂幸ノ地ニ遼々遠メ經行ノ由ナシ猶其社  
地ヲ未詳トスル仮座ノ由ヲ釈スルハ怪ムハ  
シ愚案今其社域ヲ檢スルニ本郡河崎村ニ柴  
寄ト云地ナリ志波加伎ニ音通ニ加伎ハ後世  
佐伎ニ轉訛スル処ニメ志波加伎ハ旧名ナル  
ヘシ河崎ハ本郡ノ和名抄英多郷即縣郷ニメ  
上世縣土ノ所居ニメ後世ニ郡家郡司ノ所置  
ナリ其名正メ惑ヘカラス縣主神社ヲ所生ニ  
メ明ナリ然レ凡今ハ廢社ニメ其地定リ難シ

本邑ノ内柴崎ト云処ト峯城由墟ノ北ニ巡ニ  
旧名存ストイヘ凡社宇ハ十二鈴鹿郡賦ニ志  
モカキテ志モ誘ホトテ川誘ノ文を以テ小地  
名ヲ於廢社ノ詔方縣主日本武ナリ後トリ小  
今穂苗一ニ稱一好ニ云廢社ノ地ニメ宮屋  
鋪ト稱スル処本社ノ址ナルヘシト定ムヘシ  
紀由章編集ノ凡未其地ヲ詳ニセストイヘ凡  
此地ニ必セリ式社案内記此ニ從ヘリ祭神大  
ハ洲靈ト云ニ劬ヘリ未詳ニ其證ヲ得ス神名  
帳考正及勢陽軍記拾遺伊勢名所圖會等楠原  
村天神或菴藝郡林村天神ニ定メタリ各非ト  
メヘシ祭神ハ未詳トイヘ凡社地ハ河崎村ニ

決スハシ  
式内縣主神社同處ニテリ方俗德落ノ社ト称  
ス度會延經神名帳考證云縣主神社姓氏錄  
縣主ハ日本武尊之後也古事紀云倭建命御子  
建兒ノ王伊勢別之祖倭久名抄云高宮多加美  
也建与高語通今云高宮村庄野宿ノ西也度會  
正身神名帳再考證云縣神社和名抄云英多阿  
加多姓氏錄古事紀所引上ニ同ニ所記建見見  
ノ神ナリ社地考證ニ高宮村ニ在下未詳親  
毅考ニ延經考證縣主ノ神社ノ名義ニ抑テ姓  
氏錄古事紀ヲ引抑テ伊勢別ノ祖神ヲ祭ル処  
小定メ倭名抄高宮ノ多加ト建語通スル故ニ

建宮ノ義ニ本郡高宮村ニ坐スト注セリ正  
身再考證ハ祭神ハ上説ノコトク相同ニ社域  
ハ考證ニ高宮ニ在下ハ氏詳テラス英多郷  
ハ和名抄ニ阿加多ト載ス并ニ姓氏錄古事紀  
ヲ所引ニ從ヘリト解タリ愚案ニ縣主神社ノ  
所ハ即倭名抄英多郷ニメ鈴鹿縣主ノ居ス  
ル処倭姬世記ニ天照大神鈴鹿奈具波志忍山  
ニ六箇月鎮座ノ時鈴鹿縣主献年魚安濃縣主  
真乘枝献執穀ナルハ是ナリ猶縣主ノ上祖ハ  
古事紀景行天皇段云倭建命前ニ要吉備臣建  
日子之妹大吉備ノ武比賣生建御兒王讚岐綾  
君伊勢之別登袁ノ別麻佐ノ官首別等之祖ト

了り伊勢別上世ヨリ此地ニ居ル此処ニ以鈴  
鹿縣主モ此種別ナルハ之祭神建御見見ノ玉  
縣主ノ祖タルニ依テ其後裔ノ所祀ハ必セリ  
故ニ縣主神社ト稱スナリ然ルニ考證建宮ニ  
高宮ヲ通訓メ強テ本郡高宮ニ祀ル処ト云ハ  
附會ナリ高宮ノ稱ヲ知ラサル処ニ臆断ナ  
リ又再考證ニ建御見見玉ヲ祭ルト定タルハ  
考證ニ拠レリ然レ其社地ハ未詳ト云ハ社域  
ヲモ不知ル縣主人名ニ拠テ祭神ヲ定タルト  
云ハ妄ナリト謂ヘ之猶高宮ノ名義ハ景行天  
皇行幸ノ綺宮ノ旧地ニ高宮ノ名下リ建宮  
ノ義ニハ曾テ非ス建御見見玉ノ社地ニハ高

宮ト云片ハ倭建命ノ御陵ノ地ナレハ建宮在  
云ケレト其義ナキハ歴然タル旧地ノ高宮ナ  
レハナリ深ク探考トナルノ弊ナリ孰レ忍山  
志波加伎縣主三宅等ノ社地ハ本郡第一ノ旧  
境ニハ能クセスメ別ニ惑フヘキニ非ルヘシ  
ニ考證ハ博古ノ学未盛ナル時ニ拠テ此舉ア  
リ故ニ妄誕偽虚ノ信ストイハレ後世ニ至リ  
畏ルヘシ愚カ所考モ多端ニハ謬妄ナキニ非  
ズ後人訂正セハ幸甚ナリト憶ヘリ神名帳考  
正社地未考ト云式社案内記近世ニハ所考此  
地ニ奉祀トス是トスヘシハ  
天武天皇河曲頓宮旧墟ニ同邑字ハ堂々坂ト云

処ニアリ壬申ノ乱ニ天武天皇潜幸ノ時河曲  
坂本ノ頓宮ヨリ朝明郡志氏頓宮ニ幸ス上世  
ノ旧地ナリ河曲ハ今ノ河曲郡ニ非ス河崎村  
ノ旧名ナリ混スヘカラス日本天武紀云越太  
山至伊勢鈴鹿爰国司守三宅連石床介三輪ノ  
君子首及湯沐令田中臣足磨高田ノ首執家等  
参過于鈴鹿郡則且夕祭五百軍塞鈴鹿山道到  
川曲坂下而日暮也以皇后疲之暫留御輿而息  
然夜曠欲雨不得淹息而進行此ニ拠ル片ハ暫  
ク憩息アリニ処ナリ然レ凡其地ヲ遺失セサ  
ル為ニ堂宇ヲ後世ニ建タリトイヘ凡壞廢メ  
今ハ亡ニ故ニ堂々坂ノ名アリト云

○知永山本臺寺 本邑ニアリ旧昔ハ伽藍ノ大  
廈寺領百貫ノ地ナリニ天正中峯合戦ノ時  
田録ノ今ハ總ニ存セリ  
○峯城址 本邑ノ小字峯ト云属邑徳原ニアリ  
慶安三年ノ枝郷ナリ同処村中ヨリ三丁許小  
山ノ上ニアリ東西七十五間南北百四十間天  
守臺櫓多門等ノ跡存ム今ハ松林ニナレリ元  
弘年中関四郎盛忠ノ五男関五良平政實此ニ  
居城メ峯越前守ト称ス其子峯大和守相嗣テ  
往ス鈴鹿郡賦ハ峯越前守同与八郎同大和守  
三代トニ工タリ又勢陽軍記天正二甲戌年七  
月織田信長長嶋一揆征伐ノ時信長ニ属メ峯

八良四良鹿伏免六良四良関四郎以下戦死ス  
其弟峯与八郎幼稚ニ拠テ小地ヲ賜フ天正十  
年関本下野守ニ峯城ヲ給ハル故ニ峯城与力  
山尾堀内下井大久保青木森伊藤ノ諸士下野  
守ニ属ス天正十一年関安藝守入道万鉄斎ノ  
臣羽若藤左衛門尉安藝守父子ニ叛キ滝川左  
近将監一益ニ属ス故ニ一益鈴鹿郡ニ登向メ  
関本下野守ヲ追テ峯城掠奪メ姪滝川儀大夫  
ヲ命メ居シム天正十二年正月豊臣秀吉峯城  
ヲ襲ヒ滝川ヲ伐ニ力為ニ羽柴美濃守秀長三  
好孫右郎秀次蒲生飛弾守氏郷堀久太郎織田  
上総介信包筒井順慶蜂屋兵庫頭池田輝政入

道勝入森武藏守等大倭国軍卒数万ヲ従テ此  
ニ来リ秀吉ハ河寄村ニ陳營アリ数回戦トイ  
ハレ速ニ功ヲ得ナル处越前ヨリ柴田修理進  
勝家近江国ニ出陣スト聞テ秀吉ハ兵ヲ此処  
ニ分テ置帰陣アリ然ルニ峯城ハ関安藝守木  
村隼人正前野勝左衛門尉一柝市介山岡美濃  
守青地四良九衛尉等ニ命メ對軍ノ圍マシム  
同二月八日近江ヨリ再帰陣ノ後百餘日ニメ  
城中兵糧尽キ城主滝川儀大夫降メ衆名郡衆  
名ニ遁ル故ニ信雄其臣佐久間甚九郎ニ命メ  
峯城ニ居シム龜山城ハ秀吉関長門守ニ賜ハ  
ル蒲生家ニ属ス国府鹿伏免神戸城ハ織田信

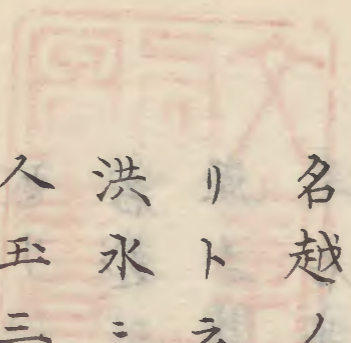
包守之天正十二年甲申四月豊臣秀吉蒲  
生飛彈守近藤山城守関長門守近江勢ヲ卒メ  
再佐久間甚九良所守ノ峯城ヲ征ス同十二日  
夜関万鉄秀蒲生氏郷ノ臣坂源九衛門尉等軍  
卒ヲ七ツ尾ト云処ヨリ攻撃テ終ニ城ヲ奪フ  
佐久間敗績メ美濃国岐阜ニ走ル此時廢城ノ  
後真起十二城ニ属ス村邑二十四郷正税三万  
石ノ処ナリ関家ノ廢絶ハ此時ヨリ以前峯守  
八郎ニ小給ノ信長ニ属ス天正十二甲申年豊  
臣秀吉織田信雄ト矛盾ノ織田家ノ属士美濃  
国加賀井城主加賀井弥八郎ヲ伐スルニ及テ  
信雄子カトノ神戸一黨ヲ千種三郎九衛門尉

楠十良濱田与右衛門尉峯守八郎ヲ命メ二千  
餘兵ヲ卒セシメ防戦ス五月六日千草神戸河  
下喜加藤太郎九衛門尉峯八良秀吉ノ為ニ戦  
死ス此時峯家断絶セリ勢陽軍記摘要此ニ標



名越 川寄ノ巽位十六丁ニアリ明神川ノ水  
居ス河寄ノ属邑ナリ旧名那久志里後  
名串今名越ニ作ル倭姫命世紀天照太神鈴  
鹿奈具波志志山六箇月鎮座鈴鹿縣主猷年魚  
安濃縣主真末枝猷執穀外宮神領目錄那越御  
園田三十六段云云上件ノ旧例ニ拠テ往昔ヨ  
リ大神宮御贄ニ毎年六月晦日ヲ限リ小岐須

伊舟原村川寄名越五箇村次第にて年魚ヲ捕  
賜ヲ去塩ニ淹メ神供ニ貢獻スナリ六月晦日  
漁捕終リテ被川ノ岸ニ芝生ノ地アリ其処ニ  
村民群集メ幣ヲ插シ被禊スル体ヲセリ是ヲ  
名越ノ被ト称ス此修禊ヨリ村名ニ負フ処ナ  
リト云世上世ヨリ此例アリテ此被所ノ芝生ハ  
洪水ニ流亡スルナリ奇ト傳ヘリ勢陽俚彦  
人五三十一代敏達天皇當国當郷ノ庄内釈大  
寺へ行幸ハ片大神釈大寺へ降臨ス其片神供  
ニ進献シタル例ナリ云云今考敏達天皇本州  
ニ行幸ハ月国史ニナリ釈大寺此村邑ニナリ  
処ナリ名佛徒ノ説ニメ信スルニ足ラズ名越



被ハ公事根源云大を〜と云らるる宮〜  
〜朱雀門ノ集〜被を〜。嘉るなり六月十二  
日二度有り天武天皇ノ御時ナリを〜満る  
拾遺集質。 人々

大神宮年中行夏下旬の〜セ乃命のふ〜と云  
き〜ト載タリ神宮ニモ六日晦日祢宜權祢宜  
物忌父等五十鈴川原ニ大ナル茅輪ヲ造リ  
荷用役人將來リ神夏修行アリ法性寺関白記  
云

此歌ヲ唱ヘ〜云云後拾遺ニ載ヌ作者和泉式

部カ予ナリ元テ公事根源ノ大後ヲ名越後ト  
俗稱ス夏被御被夏神樂夏祭等モ此遺例ナリ  
又解除被ト云アリ觸穢ノ時百官寮一同ニ臨  
時ノ被襖ナリ国史ニ見エ被襖ノ後ハ日本  
紀旧記神祇令延喜式清涼御記等ニ悉ク載  
ナレタリ

勢陽五鈴遺響鈴鹿卷之五終

勢陽五鈴遺響鈴鹿郡卷之六  
式内那久志里神社 同邑東口松林ノ丘園北ノ  
麓ニ坐ス本邑縣主神社ヨリ坤位十六丁  
會延經神名帳考證云那久志理神社長白羽神  
古語拾遺云令長白羽神伊勢国麻統祖種麻以  
為青和幣也記云奈久波志忍山按奈具長白也  
波志坐也在野村之南五町許忍山稱白鬚神白  
羽神之訛乎度會正身再考證那久志理神社  
号ノ義ハ根越入ナリ根ハ富士根高根ノ根ニ  
テ峯ノ畧語根ノ用ナリノ用ノノ餘音イテ  
生ルナリ是ハ鈴鹿ノ峯ニアル社ニテ京ヨリ



来ル片伊勢へ入ル始ナレハ此社ヲ神名帳ニ  
モ鈴鹿郡ノ始ニ置ニナリ峠ハ手向ニテ山ノ  
頂ハ必国ノ堺ナレハ神ニ手向ナク越ニク  
ヨリテ名ケタル辞ナリト云モ係思フヘシ  
祀ル神ハ齊王群行ノ片鈴鹿川ハ七瀬ノ後ノ  
一所ニテ此山其源流ノ出ル処ナレハ後所ノ  
神瀬織津姫ナリ故ニ弘安元年勅使記云鈴鹿  
山鈴鹿姫坐路双之北邊也古ヘヨリ鈴鹿姫ト  
云今社地路双ノ西ノ邊ニ在リ路モ古ニ異ナ  
ル乎親毅考ニ延經考證那文志理神社ノ名  
義ニ柳テ古語拾遺長白羽神ハ伊勢麻統祖神  
トイハ倭姫世記ニ奈久波志忍山トナルニ柳テ

奈具ハ長白ナリ波志ハ坐スノ約ニ又長白羽  
神ニ坐ス然レハ本郡野村ノ南五丁許ニ在ル  
忍山ハ祭神白鬘明神ト称スルハ長白羽神ノ  
訛ナルヘシト注セリ正身再考證奈久志理神  
社社号ハ根越入ニテ山ノ嶺ヲ越シ入ルノ義  
ニハ鈴鹿峯ニ所社ノ神社ハ京白リ伊勢ニ  
入ルノ始ナレハ神名式ノ本郡ノ首ニ置ルナ  
リ祀神ハ齊王郡行ノ時鈴鹿ノ後所ナレハ瀬  
織津姫命ナリ弘安勅使記ニ鈴鹿姫路頭ノ北  
邊ニ坐ストイヘ凡今社地ハ路頭ノ西ニナリ  
今古ノ異ナルヘシト釈セリ愚案ニ考證奈具  
志理ノ名ニ柳テ奈具志波忍山ヲ引柳テ奈具

ハ長白ナリトイハ長ノ訓ハカナヘリ白ハ  
用ナレ又波志ハ坐ナリオハニト訓畧ス波志  
トノミイフヘカラス然レハ長白坐スト云義  
ニテ祭神長白羽神ナリト云ハ聞工難ニ長白  
ニ對メ方俗白鬘明神ト云ニ相合スヘレトイ  
ハ氏後世牛頭天王ハ幡等土民ノ俗稱スル処  
妄ナリ證トレ難ニ猶忍山神社ハ神名式及其  
地名ヲ社号ニスル処ナレハ今古著明ナリ然  
ルニ此奈具志理ノ神社ヲ牽強ニ忍山ニ配セ  
ニトス甚怪ムヘレ本郡野村忍山神社ハ條ニ  
係考レレ再考證ハ奈久志理人名義ハ根越  
今ニテ京ヨリ伊勢ニ入ル人始ニテ嶺ヲ越入

ルノ義トス故ニ神名式ニ鈴鹿郡ノ首ニ旣置  
ト云鈴鹿社ニ充ニト欲メ此言ヲ設ケルナリ  
各非ナリ允テ式内ノ神社ハ上世ヨリ旣在ニ  
メ延喜中ニ式ヲ定メテ官牒ニ入ル処ナリ  
然ルニ當国ニ京ヨリ入ル人始ハ神武東經ニ  
ハ大倭国宇陀郡景行天武ノ行幸ハ鈴鹿郡聖  
武潜行ハ伊賀国ヨリ始テ本州ニ入玉ヒ其餘  
猶有ハレ今鈴鹿群ヨリ入ル人ニテ知テ嶺越  
入ノ名ヲ當社ニ名クヘキニ非ス又神名本郡  
那久志里神社ヲ首ニ旣記テ證トスル片ハ度  
會郡大神宮多氣郡須麻湍賣神社垣内田ニ  
リ飯野郡朝田意兆多神社一志郡ハ太波多神

社安濃郡産品置漆神社菴藝郡稻生伊奈富神  
社河曲郡神戸高市神社三重郡田坂部江田神  
社朝明郡鶴村伊加留我神社貞辨郡丹生川上  
鴨神社衆名郡衆名神社以上十三郡悉其郡  
首ニ所載ニノ京都ヨリ入ルノ始ニ非ス今考  
ニ大畧其郡ノ大社名神ニノ首魁ニ載ラレ  
トオモヘリ又弘安元年勅使記ニ鈴鹿姫坐路  
頭北邊ト云フ疑ヘリ中世ハ今ノ路ニ非ス社  
域ノ南ヲ通セリ此故ニ鈴鹿社ハ北ニ當レリ  
トスヘシ後世此社ニ迂ノ方山神社ニ定ム詳  
ニ前系方山神社ノ条ニ考ヘシニ考證ノ説各  
從ヒ難シ奈具志理ノ名義ハ試ニ云ヘシ奈具

波志忌山ニ對セル名ニノ志山ハ本州鈴鹿郡  
ノ始ニアリテ東海ヨリ龜山ニ至リ敢テ高岳  
トシ此地ニ至テ山岳ヲ望ムニ山首ニアル処  
ニノ其地ヨリ山嶺ノ長ク連綿スル始ニノ端  
ニ語通フヘシ又長クヲ約メ奈具ト云端ヲ波  
志ト填テ奈具波志ノ名起リ志山ノ枕辞ノ如  
ク作レルナリ又奈久志理モ同ニ龜山ヨリ此  
地ニ至リ山脉長ク連聯メ其首端ニ對メ後ヘ  
ナルカ故ニ奈久志理トイヘルナリ其地方ヲ  
閱メヨク知ヘシ或云那久志理神社ノ名義ハ  
名越村ニ坐ス故ニ名クト云ハ非ナリ名越被  
スルハ後世此地ニ行フ処ナレハ從ヒカテ

竜照近神名帳考正那久志理神社忍山白鬘明  
神ニ充夕リ是考證ニ從ヘルナリ勢陽雜記拾  
遺背書国誌式社案内記各名越村ニ旣在下云  
是ト謂ヘシ

住山 龜山府城ノ北ニ一里アリ山間函谷ニ民  
居ス須美耶麻ト訓ス名義山中ニ住スルノ故  
ニ名久正税三百七十八石龜山領ナリ本邑ニ  
駒取池ト云アリ又茶毘塚ト云処アリ往昔ノ  
斃罪旣ナリ元龜年中蒲生飛彈守ノ手力住山  
甚左衛門尉吉久居住ス小河左京方女ヲ娶テ  
山口盛治ノ産ス此住山氏旣知左時ノ刑罪旣  
小ナリ或云関安藝守盛信ノ旣置氏云山口

盛治行狀近江国水口取車稻川井泉ノ傍ニ石  
碑ヲ建銘文左ニ記ス  
山口志兵衛重成者勢州之人也本姓住山氏初  
名盛信号ニ左衛門其父甚左衛門吉久仕飛彈  
守蒲生氏郷領鈴鹿郡住山村娶小河左京女生  
一女三男長曰内記也盛信者其弟也氏郷移封  
奥州吉久並從之盛治及十八歳来江府事修理  
亮山口重政慶長十八歳重政及嫡子伊豆守重  
信有故忤者竄于武州入間郡生越竜穗寺盛治  
辛勤竭力奉之元和元年攝州難波戰重政重信  
屬掃部頭井伊直孝下攻之河州若江重信一番  
合鎗先獲首級其身亦被瘡寇兵進至盛治從其

役与同僚兩三人擊追來負重信歸陣重信得免  
既而没重政嘆盛治戰軍功跋羣示感書卑山口  
氏及其諱字且授家紋於是盛治称山口志兵衛  
重成乱平之後重政赴高野山欲至南海使盛治  
事雅樂頭酒井忠世寬永二年遇赦歸江府仕幕  
下采邑依旧同七年重成歸仕重政同十三年重  
政易簣次男修理亮弘隆嗣其家重成勤仕如故  
正保四年弘隆本台命守江州水口城重成從行  
水口土山之間水乏行人苦渴重成聞山麓清泉  
涌出盛夏不涸掘井于稻川疊石為甃大為行旅  
之便兼應三年五月十六日重成病死年六十九  
号即應子心其后經年土崩石傾其子志兵衛重

主願間追其志畢修覆之功依价者訖訖父之履  
歷固辭不措乃述其大槩作一絕示之其詩曰  
從役難波揚勇名 稻川療渴本淳亨  
清泉日夜流不尽 洗出忠臣一寸城

延宝已未冬 整亭主人春常法眼林重民識  
孝子山口志兵衛尉重正建焉

全碑ハ本州ヨリ洛京ニ至ル東街道水口駅東  
ニ土山領ト界ノ標木アリ其処ニ小橋アリ稻  
川ト称ス橋南ノ田畝ノ中ニ甃石井泉及碑碣  
アリ住山氏ノ因ニ拠テ此ニ奉夕リ  
○日照山住山寺 同処ニアリ黄檗派也本尊  
十一面觀音其作未詳ト云伊勢順礼第二拾番

をりて任守の山にけい入る侍のりくみ物に記さ川

亀田 亀山府ノ北ニアリ山間ニ民居ス加免陀  
ト訓ス亀山ニ對ノ名ク処ナリ正税二百九石

亀山領ナリ

羽若 亀山府ノ乾位ニアリ山間ニ民居ス波和  
ト訓ス正税四百三十一石亀山領ナリ旧名葉

若ト各ス東鑑文治三年四月廿九日條ニ載ス  
後白河院御領ノ庄ナリ神鳳抄云葉若御厨御

神領内二斗五升九月兼及年中ノ沙汰ナリ前  
條安樂御厨同ク同時ノ寄進ナリ今檢スルニ

本邑ノ乾位ニ差矢場ト云小字アリ古昔二十  
三間堂ヲ建テ京都ノ大佛殿ニ習テ差矢ヲ射

田 三ノ処ト云遺跡アリ又村邑ノ東ニ夜泣松ト云

老松ナリ今幹枯テ繞ニ存セリ此地ハ関安藝  
守万鉄入道ノ長臣葉若藤左工門尉領所ニ

関家繁昌ノ時差矢場ハ所置ナリ葉若氏宅地  
ノ旧址ノ地ナリ天正十一年関安藝守入道万

鉄齋亀山帰城ノ後家督ノ主ヲ定ニトテ葉若  
藤左工門尉岩間ハ左衛門尉兩臣ニ譲ス葉若

ハ次男兵衛尉一政ニ立ヘシト云岩間ハ三男  
勝藏ニ立ヘシト云然ルニ関家歴代ノ主ハ

乳房四箇アリ此勝藏然ナリトイヘ凡万鉄ハ  
葉若ト同心ノ兵衛尉ヲ總領トス蒲生氏郷ノ

女ヲ娶テ塔トスルニ及テ葉若藤左衛門権ヲ

募リ岩間ハ威ヲ矢ヘリ氏郷父子豊臣秀吉ニ  
子カタルニ抑テ安藝守父子ニ秀吉ニ屬セリ  
天正十一年癸未正月豊臣家ニ年賀ハ拜礼ヲ  
遂ヘシトテ関父子葉若ヲ相伴テ上洛ス其七  
コヲ窺ヒ岩間ハ左衛門一族四十三人徒黨メ  
叛逆ニ滝川左近將監一益ニ屬ス云云勢陽軍  
記摘要メ此ニ錄ス詳ニ後條執庄ノ城條ニ載  
タリ又葉若九郎左衛門尉岩間七郎左衛門入  
道等アリ勢陽軍記ニ載ス  
椿世ノ龜田ノ東ニアリ山傍ニ民居ス都波伊曾  
ト訓ス正統七百十九石龜山領ナリ  
田村椿世ノ良位ニアリ山林ニ民居ス訓字人

ト下ニ正統七百七石龜山領ナリ天正年中山  
尾甲斐守居住ス宅地ノ趾アリ門家人カ力ナ  
リ  
長明寺田村乾位ニアリ山林ノ間ニ民居ス知  
也宇免宇慈ト訓ス正統四百三十九石龜山領  
ナリ  
岩森長明寺ノ乾位ニアリ山間ニ民居ス伊波  
毛理ト訓ス正統二百二十二石龜山領ナリ  
太田岩森ノ西ニアリ山間ニ民居ス於富多ト  
訓ス正統八百五十五石龜山領ナリ天正十二  
甲申年豊臣秀安樂越ヨリ本州ニ發向ニ峯城  
国府龜山城ヲ伐ノ時本陣營ヲ此処ニ置之遺

址アリ  
野尻 東街官道落針ノ東ニアリ平林ノ間ニ民  
居ス乃總理下訓ス或上ニ野尻ト称ス神戸郷  
ノ内ナリ正税四百二十七石龜山領ナリ和名  
抄野尻郷ニ私称ニ神戸郷ト云ハル  
豊受大神遷幸旧址同処ニアリ土俗神館明神  
ト称ス鎮座本記云泊瀬朝倉宮御宇天皇廿一  
年丁巳十月朔倭姫命夢教覺ニ給ス皇大神吾  
身如天之小宮天下五毛一旣再坐御饌尾安不聞  
食丹波国子佐之小見比沼魚井之原ニ坐道主  
子八乎止女乃奉齋御膳津止由氣皇大神乎我  
坐不国欲度誨覺給ス尔時大若子命差使朝廷

御夢之帖乎令奏給ス即天皇祥御夢ニ則天  
皇今日相夢矣汝大若子使罷往天布理奉下宣  
支二十二年戊午七月七日從但波国吉佐宮去  
云倭国宇太宮御一宿坐伊賀国穴穗宮御一宿  
坐ス伊勢国鈴鹿郡神戸御一宿坐ス云云豊受  
大神丹波国ヨリ本州度會郡山田原ニ遷幸  
順路ニ鈴鹿郡神戸ニ一宿坐又ト云地ナリ  
元々集及永正八年内宮廳宣ニ載タリ神戸ノ  
名義ハ倭姫命世記ニ天照大神遷幸ノ時大比  
古命日忌山ノ白支然ノ神宮造リ奉令幸行又  
神戸並神戸進支トナルニ於テ其神戸神戸ノ  
地ヲ指ス即此地ナリ後世ニ至リ野尻太閤寺



落針山本末之下等ヲ神戸郷ト稱ス倭名抄所載ノ郷名ニハ非ス各神稅徵納ノ地トシテ神鳳抄ニ所載ナリ毎年六月廿一日上人祭祀ヲ行ヘリ故ニ今神館明神ト俗稱スルモ多ク神戸神厨ノアル所ノ神祠ヲ不ヘリ鈴鹿郡賦野尻なる神所ノイヤ此トシテ其ノ豐受宮ノ御蹟ナリ云々神鳳徵古録古屋草紙是ニ同云或ハ東街道名所國會布氣神社天照大神五十鈴川上ニ遷幸跡ナリト云ハ非ナリ或云忍山神社ノ地ヲ天照大神遷幸ノ地トシテ豐受大神モ一宿坐スト云ヘリ是妄ナリ此地ニ神所ノ名アルニ從テ前輩多ク豐受大神一宿ノ旧址ト定ルニ

從テ其真ヲ奉テ記セ本郡野村奈久波志忍山天照大神遷幸ノ地ト混淆スヘカラス其條ニ併考ヘシ

式内布氣神社ノ同邑東街道ノ傍叢林ノ中ニ坐ス本郡野村忍山神社ヨリ乾位五丁ノ度會延經神名帳考證云布氣神社是豐宇氣姬神布宇宇音通ス今在湯津羽村云羽黒山杜此乎出羽国田川郡由豆佐賣神社是羽黒山也湯津羽由豆佐音通ス豐宇氣姬命之别名也度會正身神名帳再考云布氣神社ヲハ深江也加江ノ反ケ前ノ江ノ神社ト對セリ祀神同前社地深溝村乎或說ニ野尻村ニフケ屋鋪ト云古地

リト云々親毅考、延經考證布氣神社ノ名ニ  
拠テ布ト宇通音ナル故ニ祭神豊宇氣姫命ニ  
充タリ猶本郡ニ湯津羽村アリ羽黒山権現ノ  
祠アリ即出羽国由豆佐賣神社ニ由豆佐賣  
ハ豊宇氣姫命ノ別名ナリ故ニ湯津羽由豆佐  
語通スルニ拠テ羽黒山ノ社ヲ布氣神社ニ牽  
合スト注セリ愚考ニ湯津羽村ト云今亡云羽  
黒権現ノ山下ヨリ注出ル小野川ノ水源ヲ方  
葉第一吹黄力自作歌湯津磐村ヲ侵メ此地ノ  
事蹟トメ後入川上村湯津羽村ト稱メ撰集ノ  
子ヲ牽強スル処ニ其地異ニ今湯津羽ト  
云テ證トシ難ニ續後拾遺及天木抄白河殿七

百首等ヲ此ニ引拠ストイハ凡非ナリ羽黒山  
ハ壽永中西海ノ伎ニ佐藤次信本國ノ神社ヲ  
移メ此ニ祀ルト俗傳アリテ古昔修驗者ノ移  
シ祭レルナリ然レハ延喜式ニ載スヘキニ非  
ス後世設置処ニノ異ナリト謂ヘニ考證其地  
ノ事蹟ヲ詳ニセテ帝上ノ空談ヲ来テ論スル  
ニ至ル惜ヘキノ至ナリ今式社案内記布氣神  
社野尻村皇館大神祭豊宇氣姫命ト云此ハ考  
證ニ從テ布氣宇氣ノ通音ヲ豊宇氣比賣ニ托  
シ神館明神ノ祠ニ牽合スナリ東海道名所圖  
會ハ野尻村布氣神社天照大神五十鈴川上迄  
幸ノ時行宮ノ跡ナリト云ハ志山神社ヲ混合

ス非ナリ勢陽俚諺布氣神社ヲ豊受大神行宮  
ノ地下云ニ拠テ直ニ所祭豊受大神ト強テ記  
セリ古屋尊帝布氣神社ハ本郡鷺山村ニアリ  
豊受比賣命ヲ祀ルトイヘリ是ハ考證湯津ハ  
羽村ニ坐ストアルニ拠テ鷺山ニ近キ地ヲ云  
ニ拠テ臆度ノ鷺山ニ作ルナリ今閱スルニ其  
證ナシ勢陽雜記ハ所見ナシ再考證布氣ハ深  
江ノ訓ニ通ス江神社ニ對メ深江深溝諾ハ相  
似タルヲ得テ本郡深溝村ニ在ヘシト疑惑セ  
リ或ハ野尻ニフケ屋鋪ト云旧地アリト云ハ  
豊受大神ノ遷幸ノ地ニ混スルナリ然レモ豊  
受大神遷幸ニ十宿坐スト云其地ハ詳ホラズ

トイヘ氏御厨アル故ニ神館明神ト称シ祭神  
豊宇氣姫命ニ填ル片ハ遷幸ノ旧墟トスルモ  
故ナキニ非ス猶考ヘシ再考證ニ布氣屋鋪ト  
俗稱スルハ今ノ神社ノ地ナルト必セリ神名  
帳ノ考證ニ効ヒテ古小野湯津羽森ニアリト  
云ハ妄ナリ豊受大神遷幸ノ事蹟ハ前條ニ載  
タル併考ヘシ本邑ノ属邑ニ能古茶屋ト云  
出里アリ方俗云元禄二年禪僧能古ト云僧徒  
ノ始テ置タル処ニ拠テのんニ茶屋ト名クト  
云大ニ妄ナリ神鳳抄外宮野鼓御園ト載ス或  
一本非鼓ニ作ルハ誤ナリ旧名野鼓ノ地ナル  
非記傳ストオモヘリ

野村 龜山城府ノ西東街道ノ官道ニ民居又訓  
字ノコトシ和名川橋ヲ限リテ京口門ノ外廓  
ナリ民屋ノ南北前後ニ城主家土ノ邸舎アリ  
北ノ邸舎アル処ヲ北野村ト稱ス正税  
牛頭天王祠 北野村ニアリ光明寺同処ニアリ  
リ本願寺宗照光寺同処ニアリ法華宗慈恩寺  
浄土宗南野村ニアリ永心寺信光寺上ニ同シ  
長州寺同処邸舎ノ南ニアリ稻荷祠長州寺ノ  
乾位ニアリ慶安四年領主石川主殿頭昌勝ノ  
代ヨリ祭祀アル処ナリ其餘寺院ハ慶安中ヨ  
リ後ノ創建ナルハニ  
式内忍山神社 本邑ノ巽位三丁鈴鹿川ノ傍小

山ニアリ方俗神明或白鬚明神ト稱ス内宮儀  
式帳小山ノ宮ニ作ル忍山ノ訛轉ナルハニ  
名忍山ナリ龜山城ヨリ坤位八丁度會延經神  
名帳考證云忍山神社大山祇按忍与大通又熊  
野忍隅命作大隅命又忍言食地之所生也在忍  
山度會正身神名帳再考證忍山神社世記ニ  
河俣縣造祖大比古命ノ答ニ奈久波志忍山止  
白支然神宮造奉トアルハ此神社ナリ奈久波  
志枕辞ハ神都考ニ委ニ忍ハ稻ナリ前ニ記ス  
此辺山田多キニ抑レル名ナリ大神御經行人  
片誓ク止リ玉ノ地ニ大後ニ充祭ル処ハ稻  
ノ灵豊宇氣姫ナリ龜山野村ニ忍山下云小名

今三存不親毅考三考證忍山神社ノ名、  
テ忍ハ大ニ通スル故。大山ノ謂ニ大即祭神  
大山祇命又忍隅命ノ忍ヲ大隅氏填山ハ大ノ  
字ノ義ヲ叙テ大山ト訓メ大山祇名ヲ祭ル処  
トス忍山ヲ大ト訓ルハ是ナリ今閱ズルニ強  
テ大山ニ非スト不ハ氏東街道ヨリ西ニ望テ  
本郡ノ諸山脉長ク連綿ノ其始ニ下ル処ニ  
奈其波志忍山ノ枕詞ハ出タルナリ然レ氏祭  
神ハ未詳考得ヌ再考證ハ忍山神社倭姫命世  
記十四年乙巳秋九月一日遷幸于伊勢國桑名  
野代宮奉齊次鈴鹿奈其波志忍山ノ神宮造奉  
天六箇月奉齊次河俣縣造祖大比古命參相支

汝国名何問賜白々味酒鈴鹿國奈其波志忍山  
ト白メ然メ神宮造奉令幸行又神田並神戶奉  
支トアルニ抑テ此神社ナリト云ハ非ナリ今  
忍山神社ニ定ル地ニハ非ヌ後條ニ論セリ又  
奈其波志ノ枕辭神都考ニ委ニトイハレ其神  
都考ヲ校スルニ更ニナリ自撰ノ各ニ所載ノ  
有無ヲ知ラヌ妄ナリ又忍ハ稻ナリ此邊山田  
耕地多キ故ニ稻ノ名ヲ地ニ名クナリ云々非ナ  
リ上件ノ忍ハ大ニ通スモ適ハ州又因幡国生  
石神社或忍石氏昏リ生ノ義ト云件ハ生山山  
ナリ大神經行ノ地ニメ後ニ充祭ルハ稻ノ靈  
神豐宇氣姫命トスモ妄ナリ大神ハ箇月遷坐

ノ地ニ非レハ後ニ此社ヲ祭ルハ知ヘシ然レ  
氏忍ノ名義ニメ稻粟ヲ奉祀スルト云ハ牽強  
ニテ後ニ難ニ神名帳考正忍山神社忍山村ニ  
アリ今忍山ト云村邑ナシ然レ氏忍山ハ旧名  
ニメ村里ヲ置ニ野処スルニ拠テ野村ト名ク  
ナルヘシ勢陽雜記忍山ハ龜山ヨリ坤位廿丁  
野村ノ内ナリ鈴鹿川北ノ岸上ニ小邑アリ里  
ヨリ十四五丁河水ノ中ニ舟ノ貌ノ嶋山アリ  
此処ニ往昔潮水ノナシタルトアリ故ニ舟カ  
塚ト名ク此河水ニテ垢離ヲ搔スレハ海潮ニ  
同ニトテ潔齊ノトアレハ近邑人此処ニ来リ  
潮ヲ浴スト載タリ是俗傳ナリ或云雄略天王

二十三年豊受大神伊賀国穴穗宮ヨリ經行メ  
一宿坐タルモ此地トスルハ非ナリ前條野鹿  
村ニアリ詳ニ弁セリ又延經考證ニ河寄奈久  
志理神社條云世記云奈具波志忍山ハ鈴鹿郡  
野村ノ南五丁許ニアリ俗白鬘明神ト称又按  
ニ奈具ハ長白也波志ハ坐也長白羽神ヲ訛テ  
白鬘神ト称ニ奈具波志那久志理語相似タル  
ニ拠テ那久志理神社ニ長白羽神ヲ祀ルト云  
ヘリ今考ニ前注奈久志理ノ名アルニ拠リ長  
白羽神ヲ充テ祭ルト云後注ニ奈具波志ニ大  
山祇命ヲ祀ルト云奈具波志那久志理同キト  
云片ハ長白羽神ヲ二社ニ填祭ルハキナリ然

ルニ當社ニ忍山ノ義ニ拠テ天山祇ヲ奉祀ス  
ト云前後ノ注解差異スルハ怪ムヘシ凡テ式  
社ノ祭神ハ自己ノ見解ニテ牽強附會ノ定祀  
スル処ナリト憶ヘリ各妄ナリ式社案内記ニ  
忍山神社祭神大山祇命忍隅命ニ座ト載タリ  
神名式ニ一座ニ填ルルハ考證ヲ注テ訛リテ  
二座トスルナリ考證ハ忍ノ字ニ忍隅或大隅  
ト引拠スル処ニ祭神ヲ云処ニ非ス誤ナリ  
古屋草紙祭神大山祇命猿田彦神ヲ合祀ノ白  
鬘明神ト稱スト云是諸社ニ俗呼ノ牛頭天王  
八王子等ノコトニ白鬘神ニ拍ハルヘキニ非  
ス或云忍山宿禰橋比賣命ニ神ヲ祭ルト云其

是否ハ不知トイヘ凡ニ座トスルハ例ナシ此  
ニ拠テ俗ニ野村ノ神明ト稱スルモ上件大神  
鎮座ノ後其旧地ヲ崇敬メ忍山神社ヲ所置ト  
前輩識者モ惑ムルニ拠テ愚俗ノ混淆ヲ稱ス  
ルナリ次條ニ詳ニ辨セリ

天照大神忍山迂幸旧址 内宮延曆儀式帳伊勢  
国桑名野代宮坐天只其宮其時亦伊勢国造遠  
祖武甕方乎汝国名何ト問賜白久神風伊勢国  
止白支即神田并神戶進支次河曲次鈴鹿小山  
宮坐支彼時川俣縣造等遠祖大比古乎汝国名  
何賜只白久味酒鈴鹿国上白支其即神御田並  
神戶進支云云倭姫命世記云十四年乙巳秋乙

月一日遷幸于伊勢国桑名野代宮四年奉齋次  
鈴鹿奈具大波志忍山尔神宮造奉天六箇月奉  
齋次河俣縣造祖大比古命參相支次国名何問  
賜白久味酒鈴鹿国奈具波志忍山下白然神宮  
造奉令幸行又神田並神戶進支云云今考二桑  
名郡野代宮ヨリ本郡志山ニ遷幸ノ義ハ二齋  
相同ニ然ルニ儀式帳ニ桑名ヨリ次ニ河曲次  
ニ鈴鹿小山宮ニ坐支トアル文ニ拠テ度會正  
身神都考云河曲カハハ夕上訓スヘニ池曲海  
曲ニ十縁辺ノ義倭名抄ハセ国河曲郡加波和  
初ハ川俣縣ニノ後ニ郡トナニ同義ヲ以カハ  
ワト稱スルナリ小山宮今可考ナニ儀式帳疑

ヘニ世記ニ枕詞ヲノヘテ奈具波志忍山ト云  
ヲ載ス今其処ヲ考ルニ関馭ノ東北龜山ヨリ  
ハ丁西ニ野村ヨリ五丁南ニアリ神名所載忍  
山神社即此地ナリ小山ヲ以忍山ノ畧トナカ  
ニト欲スト云氏倭字ノ法遠ヘリ忍ハ才ニナ  
リ古事記万葉和名抄徴スヘニ云云是桑名ヨ  
リ河曲ヲ經行アリテ鈴鹿小山宮ニ遷幸ノ儀  
式帳ヲ小山宮ト云ハ考ナニ忍山ヲ小山ト云  
ノ略約ニスヘニト小山ニ作ナタルト排存メ  
儀式帳ハ偽書ナリト謗レル言ナリ各非トス  
ヘニ儀式ニ河曲トアルカハバ夕上訓ニ河  
俣ニ牽強スルハ惜クヘニ本郷河寄村ニ天武



潛幸ノ河曲頓宮ノ地ニ在ニ拠ル井ノ末名有  
リ上世ノ街道ナレハ朝明三重郡ヲ經テ河曲  
ヲ經テ忍山ニ迂幸アリタルナルヘシ今ノ河  
曲郡ニ經行アルヘキ順次ニ非ス日本天武記  
ヲ閱メ知ヘシ然ルニ小山宮ト云ハ今ノ忍山  
神社ノ地ニ非ス今ノ野村ノ南ニ觀音ヲ安置  
ス小堂アリ其名區ヲ遺失セサル為ニ堂宇ヲ  
建立ノ古昔ヨリ除地下ス是忍山宮儀式ニ所  
載ノ小山宮ノ真蹟ナリ即神宮造奉六箇月奉  
齊神田神戸進支ノ文ニ拠テ考ルニ今神戸郷  
ト稱シ野村ヲ始トメ野尻大剛寺落斜山本木  
之下尋ル村邑ヲ指セリ神鳳抄鈴鹿郡神戸御

神酒三缶副米九斗並造酒米一石懸刀縮止東  
荷前御調系三約ト載テ各此六郷ヨリ調進セ  
シナリ然ルニ後世愚俗佛ニ淫メ大神ノ迂幸  
ノ旧址ヲ蔑如メ佛軀堂宇ヲ建タルハト甚遺  
憾ノ至ナリ遺亡ヲ患ル時ハ神社ノ設モアル  
ヘキナリ此事蹟ハ鈴鹿郡賦古老ノ口實ヲ傳  
フ載スル処敢テ私言ニ非ス其地ヲ閱メ知ヘ  
シ既ニ末名郡野代宮及一志郡片楯宮飯野郡  
高宮等各此例ニ通シ其餘ニ詳ニ注セリ前輩  
其方地ヲ不檢ノ筆端ニ鋒及テ生メ闘戰スト  
云イヘ凡諺俗所謂火燵兵法畠水練ナリ晒笑  
スヘキニ堪タリ

○野村砦跡。同処ニアリ白子黨伊勢平氏伊  
藤十郎国綱文永年間居スル処ナリ又本邑ノ  
内字ハ平尾ト云処平尾某カ城址アリ名實詳  
ナラス又本邑西ノ外廓鈴鹿川ノ中ニ字ハ芝  
原ト云地アリ清潔ノ涌泉ヲ出ス其味京都柳  
ノ水ニ比スルニ清冷相劣ラズ領主ノ茶用ニ  
汲ラルト云

龜山府ニ鈴鹿郡ノ城府ナリ東街道官道ニ民居  
ス割字ノホトシ江都ヨリ百三里半城廻正税  
九百七十八石城府町ノ長十七丁ノ民家七百  
餘戸城周東西四丁二十間南北百八十間  
領内町在戸數合七千四百二十戸屬邑八十

六村ノ人数五万四千三百人牛馬二千三百  
三十匹西新町西口京街道ナリ西町  
城門青木門前万町城南坂端ニアリ横町  
大手門東南横町ナリ東町大手門ノ正  
面ニアリ

江戸ニ見附門東町ノ東江戸街道ナリ寛文  
年中修造上ニ同本新町東見附ノ外廓  
ナリ鍋町本新町ノ東ニ出テ茶屋町鍋  
町ノ東ニアリ以上東街道ノ官道堅町ナリ  
市ヶ坂西新丁ノ西ニアリ邸舎ノ地ナリ  
江ヶ室東本城良位ニアリ邸舎多ク東臺  
江戸口見附ノ北ニアリ邸舎ノ地南界青

木門ノ南西町ノ南ニアリ邸舎ノ地ナリ  
北山東臺ノ隈ニアリ足輕長屋多シ

○城門 青木門 西町ニアリ黒門 市ヶ

塚ニアリ東大手門 横町ト東門ノ間東街

道正面ニアリ江ヶ室門 城西江ヶ室ニアリ

○寺院 梅巖寺 寛文中江ヶ室ニアリ今市

ヶ坂ニアリ柔順寺同処ニアリ東本願寺宗

寛文後創立 善道寺 浄土宗南崎ニアリ本

久寺同処ニアリ寛文中ノ後創立 壽性院

本久寺ノ良位ニアリ寛文後創立 誓昌院万

所ナリ高田専修寺未寛文中願成寺今亡シ

其遺跡ナリ邊照寺 同処誓昌院東隣ニアリ

小天台宗 法恩寺 東町ニアリ東本願寺派

福田寺同処法恩寺東隣ニアリ高田専修寺

未 威徳寺 城西江ヶ室門前ニアリ寛文後

建立

○神祠 権現宮南崎ニアリ三社権現ト云

稻荷祠同処東ニアリ寛文中宗英寺アリ今亡

八幡祠 地獄谷ニアリ寛文後造立 三祇神

祠 城西若山ニアリ東西百五十五間ノ岳十

リ是元弘三年関左近大夫平實忠六世孫関四

郎盛忠足利尊氏ノ命奉メ龜山人内若山ニ始

テ城ヲ築クト云此地ナリ古城址ニメ今ノ城

地ハ實忠七世孫閑安藝守平盛信始テ築ク代  
々修補セラルル処ナリ繩張ハ盛信ノ指揮ニメ  
名城ナリ今若山古城ノ墟ニ山巔ニ三祇神ト  
号メ鈴鹿山三鬼ヲ祭ル故ニ名ク上云俗傳ア  
リ或云三龜神ナリ敏達天皇ノ朝日羅來朝メ  
石龜三匹ヲ献ス天皇歡覽ノ後日罗力心ニ應  
メ放養シメミト勅アリ故ニ一ハ山城一ハ丹  
波一ハ伊勢ニ放ツ本朝三処ノ龜ト名ク是十  
リ其龜ノ棲ム地ニ一根百莖ノ蒼草ヲ生スト  
莖ニ用ラルル樹ヲ祠ヲ建テ祭レリ三龜神ト号  
ス神風徴古録ニ載タリ俗傳ニメ各信ニ難シ  
今考メ大山祇命俗祢山人神ヲ祭リ音讀ニメ

山祇神ナリ三鬼及三龜尽ク妄説ニメ論スル  
ニ足ラズ田畑正税五万六千二十二石八斗  
五升四合明和九年改正ナリ諸処行程  
京都十二里大坂三十三里度會郡山田十  
二里安濃津五里河曲郡神戶三里菴藝  
郡白子四里桑名郡桑名八里半本郡庄野  
二里同石薬師駄二里半七丁三重郡菟野  
五里全四日市五里十四丁近江甲賀郡土山  
五里半伊賀国上野八里半城門西大手ヨ  
リ近江甲賀郡沓掛村二里七五丁鈴鹿嶺国  
界七里半東大手ヨリ全郡富田村一里半  
本府万所テ大詔同坂ト云ヨリ阿濃田ヨリ和

田畷ニ至ル処石標アリ是ヨリ平野三日市ヲ  
經テ河曲郡神戸ニ至ル徑アリ  
龜山城沿革建置ハ小松内府重盛ノ二男越前守  
平資盛幼童ノ時鈴鹿郡久我村白石ト云ルニ  
謫居ス一男子ヲ産ス長ク盛國ト稱ス西海ノ  
役ニ父資盛戰死ノ後盛國北条四郎時政カ為  
ニ虜トナリ鎌倉ニ至ル其男左近大夫平實忠  
元久元年三月三浦雅乘介盛時等伊勢伊賀二  
國ノ間ニ叛逆スル時本郡関谷ヲ左近大夫實  
忠ニ賜フ當國ヲ守護メ盛時ヲ柳道スハキ為  
ナリ二十四村二万餘石ヲ領ス其後元弘三年  
實忠六世孫関四郎盛忠足利尊氏ノ命ヲ蒙リ

本國ニ歸リ本郡龜山ハ若山ニ始テ城疊ヲ築  
テ此ニ居住ス是當城ノ始祖ナリ或云元弘三  
年ヨリ六十年前文永二乙丑白子黨伊藤武者  
所景綱カ後裔伊藤諸綱男伊藤十郎國綱同郡  
野村城ヨリ龜山城ヲ遷シ築クト云関四郎盛  
忠子孫繁多ニメ神戸國府鹿伏免峯ニ分地メ  
其五男ヲ居セシム龜山城関三郎盛繁河曲郡  
神戸城ハ関大郎盛澄鈴鹿郡國府城ハ関次郎  
盛門本郡鹿伏免城ハ関四郎盛宗本郡峯城ハ  
関五郎政宗各関家五大將ト稱ス其後関安藝  
守盛信ニ至リ関右近大夫實忠ヨリ七代二百  
二十餘年ノ曆數ナリ盛信ハ父盛次從五位下

二叙メ近江国蒲生彈正忠定秀ノ塔卜ナリ佐々木義賢義定入道ニ属ス故ニ元龜四年織田信長ノ旨ニ忤ヒテ蒲生飛彈守氏郷ニ属セラレ龜山城ヲ神戸織田三七郎信孝ニ与テ天正十年許免アリ龜山ニ帰城ス此間九箇年空城ナリ近江執七郎某ニ預ウル一云佐治執介安藝守盛信帰城ノ後比叡山ニ住ス処ノ関兵衛尉一政ヲ迎ヘテ長門守ニ称シ織田信雄ニ属メ三万石ヲ給テ父安藝守盛信関執城ニ隱居メ盛信入道万鉄斎ト号ス文祿二年卒去法諱政徳院宗一大居士ト号セリ天正十一年正月豊臣秀吉年賀ニ盛信父子拜礼ノ苗守家臣岩

間ハ左衛門四拾三人滝川左近將監一益ニ属メ叛逆ス滝川一益軍ヲ發メ峯城ヲ征ス城主因本下野守ヲ放逐メ一益ノ弟滝川儀大夫ヲ城主トス龜山城ハ佐治執介ニ命メ居住セシメ豊臣秀吉一益力此舉ヲ怒テ天正十二年四月兵卒ヲ起メ三隊ニ分伍シ本州ニ至ル其一隊ハ美濃国界土岐多良口一隊ハ近江国界安樂越一隊ハ全君々畑越ヨリ攻入テ百余日ニ平均シ蒲生氏郷戦功ニ拠テ龜山城ヲ賜ハル然レ氏郷再関長門守一政ヲ举達メ与カトシ當城ヲ領ス一万二千石ヲ領セリ天正十九年関長門守信濃国川中嶋ニ轉住メ因本下野

守當城ニ移リ居ス城附二万三千石外ニ預分  
四万餘石ヲ領ス<sup>正</sup>正十七年辛丑年本九二九  
三九ヲ經營ス殿宇此時ニ揚タリ慶長五年山  
岡道阿弥岡本下野守ヲ撃ニ<sup>松</sup>松テ斃ノ間三宅  
惣左衛門康貞ニ預ラル全年関長門守関原役  
戦功ニ<sup>松</sup>松テ三万石ヲ給領又當城ニ再轉住ス  
同十五年伯耆国黒坂城五石ヲ賜テ移リ住セ  
リ其後元和四年家臣等諍論ノ事ニ就テ領国  
ヲ没収セラル長門守カ姪兵部少輔一高長門  
守舎弟関主馬男五千石ヲ恩賜メ関家此ニ於  
テ衰絶絶ス同十五年十二月松平下總守源忠  
朝一作清匡當城ヲ給リ五万石ヲ領ス後六年

ヲ經テ摂津国大坂城ヲ拜賜メ移リ住ス元和  
元年ヨリ公領トナリ水谷九左衛門尉十三村  
ヲ領メ三重郡四日市ヨリ掌ル又元和元年三  
宅越後守康信一万二千石内五千石龜山属七  
千石三河国挙母ヨリ移住ス八年ノ間ナリ其  
嗣三宅大膳亮康盛相繼テ住ス此時殿守ヲ廢  
ス長十三間濶十間半今其遺址存セリ寛永十  
三年三河国田原城ニ移住ス寛永十三年本多  
下総守俊次六万石ヲ領メ三河国西尾ヨリ轉  
住セリ三年ノ間ニ本九<sup>三</sup>三九修營ナリ八十  
六箇村ヲ領ス此時龜山ノ領相定レリ慶安四  
年増地二万石ヲ拜メ近江国志賀郡膳所ニ轉

住又十五年人間當城。住也。同四年石川主  
殿頭昌勝下總国佐倉ヨリ轉住六万ヲ領又内  
一万石石川市正増地一万石ヲ拜賜ノ寛文九  
年山城国淀城ニ移住又同十年板倉隱岐守重  
常五万石ヲ拜賜ノ下總国関宿ヨリ移住セリ  
其嗣周防守重冬元禄元家督宝永六年逝去其  
嗣近江守重治相繼テ住又寛文十年江戸口京  
口兩見附執ニ修造又三世四十二年所務メ室  
永七年志广国荅志郡鳥羽城ニ轉住又同七年  
松平和泉守兼邑六万石ヲ拜賜ノ九年所務メ  
志广国鳥羽ヨリ移住又享保二年山城国淀城  
ニ轉住セリ同二年十一月板倉近江守重治志

广国鳥羽ヨリ再住又全九年逝去其嗣周防守  
勝澄相繼テ住又延享元年備中国松山ニ移リ  
住又全元年石川主殿頭總慶山城国淀城ヨリ  
轉住又一万石ハ備中ニ下リ其嗣主殿頭總亮  
其嗣日向守総純其嗣日向守総博 龜山ノ名  
義ニ俗傳下リ欽明天皇ノ御宇百濟国ヨリ日  
羅法師來朝メ愛スル処ノ三箇ノ龜下リ一ハ  
丹波一ハ山城一ハ此龜山ニ放ツ故ニ名ク龜  
山ヨリ良行程半里河濃田村ニ一根一莖ノ菖  
草アリ是ヲ採テ朝廷ノ卜占ノ用ニ貢ス此草  
ノ根必神龜ヲ放チ棲シムト云今檢スルニ妄  
談ナリ日羅ハ僧ニ非ス日本書記敏達天皇十



二年秋七月丁酉詔曰我先考天皇ノ御世領  
スル処ノ任那国ヲ新羅国ノ為ニ滅ナル再先  
考任那ヲ得ニト謀ルトイヘ氏未果メ崩ス是  
ヲ以朕謀リテ任那ヲ得ヘシト惟ヘリ今百濟  
ニ在ル火国芦北ノ国造阿斯利斯登カ子達卒  
日羅ハ賢ニ勇アリ朕ト彼ト相謀ニテヲ思  
フトテ紀伊国造押勝吉備ノ海部直羽鳥ヲ百  
濟ニ遣ニ日羅ヲ喚返ナル事蹟記中ニ見エタ  
リ被甲乘馬出進退メ跪拜スト云ニ批ハ僧  
徒ニ非ルハ明ナリ然レ氏此俗傳旧クアリテ  
古哥ヲ存セリ拾遺集第六別詞書みちのく乃  
くよとのくしんしんせまけりくたけりくふ

浮正様みこのかへつらちりま戒秀法師  
念ふく之きりの河のしんしんせまけりくたけりくふ  
新六帖

飛鳥井雅康東海記明應八年五月

鳥丸光廣春嘿抄鳥山をすくる月とことと  
氣なきを鳥山をせたり子員ひく春神日の所  
た、可希さ子甲をこそ目せ  
此二首此処ノ證トスルハ東海記行ニ載ル処  
ニノ丹波山城ニ非ヌさきくさ等ヲ咏ルハ丹  
波亀山ナリ亀ノ尾ト咏スルニ山城ナリ續古

今千載集等アリ癸未記行 林春齋城在環  
龜甲勢州丹陽洛泗地名侔同名異景龜山景三  
処西明一色秋 常憲唐ノ御世遠江国濱松城  
主青山因幡守忠重ノ家臣石井右兵衛尉則安  
歳俸五百石譜代相傳ノ藩士ナリ男子三人ヲ  
産ス各早逝ノ家嗣ナシ故ニ陸奥国板倉城主  
内藤豊前守信良ノ家士延宝中ニ浪零メ藤田  
信元ト云醫師アリ其子藤田水右衛門光佐是  
ヲ則安カ養子ニ約ス然レモ其性質放縱ニメ  
淫酒ニ耽ル故約ヲ變メ播磨国明石城主松平  
日向守信之ノ臣石井源藏則清俸祿三百石ノ  
士ニメ同姓ノ親アリ其次子源之丞某ヲ乞テ

天和元年七月下旬則安カ嗣子トス然ルニ前  
ニ約ス藤田光佐大ニ憤リ同二年八月十五日  
右兵衛則安ヲ潛ニ殺メ逐電メ同十月養子源  
之丞復讐メ志ヲ發メ官許ヲ乞及其君侯ヲ辞  
ニ諸州ヲ廻視メ其讐敵ヲ探ル同四年四月ニ  
登テ其蹤ヲ得ス故ニ僕従ニ謀リテ貞享元年  
五月五日夜光佐カ父ト元近江大津取ニ住ル  
ヲ詐リ是光佐ヲ却ニ其虚實ヲ求ムノ術ナリ  
其因ニ應メ同年九月十三日夜養子源之丞カ  
僭居駿河国阿部川ニ窺ヒ来テ取東中島村ノ  
田徑ヲ過ル処ヲ謀リ殺ス遺骸ハ阿部川長徳  
寺ニ葬ス時ニ二十七歳僕従等其志ヲ継テ諸

州ヲ經歷ハ播州旧親人家ニ至リ源之熙妾ヲ  
訪フ其男児二人アリ生育メ後俱ニ讐ヲ撃テ  
卜謀ル然ルニ君侯松平日向守信之逝去メ後  
遺跡ノ争論同扱テ下野国石河ニ得替メ故ニ  
旧臣石井源藏致仕メ播州ニ居メ農耕ヲ業ト  
メ彼源之熙力妾ニ児ニ俱ニ同居メ其児兄ハ  
七歳源次郎弟ハ五歳半次郎ト名ク貞享二年  
同国赤穂城主浅野内匠頭長矩ノ長臣大石内  
藏助良雄ニ托メ武術ヲ学シメ大石良雄ハ先  
主浅野采女正長友ノ長臣大石頼母良重ノ養  
子ナリ其母ハ備前国岡山城主松平備前守吉  
政ノ藩士池田主水ノ女ニメ石井源藏力叔母

又源藏ハ養父頼母良重ト外従兄弟ナリ同藩  
池田玄蕃ノ次男内藏助良雄ヲ大石ノ嗣子ト  
ス故ニ石井大石ノ節義此ニ及ヘリ二児漸ク  
長メ元禄十一年正月石井源治郎良則十九歳  
同半次郎雄則十七歳各首服メ大石良雄ノ二  
字ヲ分テ名ク然ルニ貞享二年讐敵藤田水右  
衛門諸国ヲ潜行メ東都ニ至リ本州龜山城主  
板倉周防守忠冬ノ藩士ニ屬メ進挙ニ赤堀水  
之助ト改名ニ俸禄三百五十石ヲ給メ元禄十  
一年三月五日二児播州赤穂城大石良雄ノ家  
ヲ辞メ備前国ニ至リ又京撰ヲ歴遊メ故義祖  
父石井右兵衛力旧藩遠江濱松ニ至リ其墳墓

二 拜謁ス其時旧君侯青山下野守ハ丹波国笹  
山城ニ得替ノ當城ハ本庄安藝守ニ給テ其次  
二 駿州阿部川取ニ至リ長徳寺亡父ノ古墳ニ  
謁シ及中野村死嗒ノ地ヲ探リ同年六月東都  
ニ至リ同十二年二月弟半次郎本州龜山侯ハ  
藩士多羅尾隼人ノ陪臣トナリ後ニ及河小刑  
部ニ任テ兄源治郎ハ讐敵水谷カ故居ナルヲ  
以テ陸奥国棚倉ニ至ル同年二月本州龜山ニ  
来テ兄弟相會ス同藩里見源左門ニ任テ元  
禄十一年播州ヲ辞メ諸国ヲ經歷シ漆面吞炭  
苦艱ヲ忍テ同十二年五月廿八日ノ曉天寅ノ  
下刻龜山城門大手前喰遠土堤ノ傍ニメ赤堀

水之助ヲ擊殺復讐ノ孝志年来ノ鬱憤ヲ此ニ  
達セリ時ニ光佐五十七歳兄弟此地ヲ去テ菴  
藝郡白子浦ヨリ舟行メ三河国吉田ニ着同六  
月三日遠州濱松ニ至リ義祖父右兵衛則安ノ  
墳墓ニ敵ノ鬘髮ヲ供シ又駿州阿部川長徳寺  
ニ至リ亡父源之丞カ墓ニ謁メ首級ニ代テ鬘  
髮ヲ供スルテ前ノコトニ同六月十一日東都  
ニ詣リ復讐ノ由ヲ官府ニ訴テ嚴命アリテ故  
君青山ニ賜テ同七月廿八日君侯ニ奉謁シ父  
源之丞カ遺跡ヲ受継テ兄俱ニ執知五百石ヲ  
恩賜ス同五年君侯青山因幡守忠重丹波国龜  
山城ニ得替ニ應メ其地ニ至リテ奉仕ス大石



良雄其君主ノ讐ヲ伐ハ元禄十四年二月十日  
其前年良雄山城国山科ニ潛居ス此ニ至テ多  
歳ノ恩惠ヲ謝ス良雄惑賞斜ナラヌメ相別ル  
ト云右元禄年中丹州龜山隱士望月志遊軒高  
信所編石井明道士傳全帙十六冊ノ大意ヲ摘



此ニ異説區々トメ妄誕ニ係ル若干ナリ原本卑  
辭理事トイハ凡其時世ノ編スル外真トスハ  
本府ニ係ル事迹ニメ世ノ人口牌ニ贈灸又  
ルヲ以テ其孝義ヲ美トメ標出スルニ及ベリ

勢陽五鈴遺響鈴鹿郡卷之六終 紙数五拾八枚



良旗其君主人... 信純編石井明道... 傳全帙十六冊... 大德... 紙教五拾八枚



